

平成27年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

For all the students

～すべての学生生徒のために～





全国トップクラスの教育拠点を目指して

～入学志願者10年連続増加と就職率6年連続上昇を経て～

本学園の運営につきましては、平素より格別のご理解とご支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、現在、政府によって様々な経済成長・財政再建の戦略が講じられ、教育政策に関して、経済成長の一環で「教育改革」、財政再建では「私学の財政的自立」が求められています。学齢人口の減少と相俟って学校経営の環境はいっそう厳しくなり、多くの学校が経営改革の英断、教育改革を断行せざるを得ない状況と言えます。

このような環境の中で、本学園は早期から学校改革の重要性を認識し、10数年余にわたって多様な試みを行ってきました。これらの取組は、本報告書の「主要な取組成果」としてまとめているとおり相応の成果を創出し、「10年連続入学志願者の増加、6年連続就職率の上昇、3設置校全ての財政安定化」として結実しつつあります。

もとより、私たちはこの現状に満足することなくいっそうの改革・改善を推し進め、「全国トップクラスの教育拠点」を形成し、社会の変革に適應できる強い人材の育成を目指してまいります。

この教育研究活動報告書は、学生・生徒・保護者の皆様、そして学校運営にご支援をいただく企業・地域の皆様に、私どもの教育・研究・経営及び財務の諸活動の取組とその成果について具にご説明し、いっそう本学園をご活用いただくことを目的としています。

おって、この報告書を通じた関係の皆様と本学園の双方向のやりとりは、私どもが諸活動を磨き高めるには欠くことのできない貴重な機会であると存じます。どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

平成28年6月1日

福岡工業大学・同短期大学部

学 長 下村 輝夫

INDEX

I.ごあいさつ	1
II.主要な取組成果	
(1)入学志願者・入学者の状況	3
(2)教育力の発揮	5
(3)研究の高度化	7
(4)就職力の強化	9
(5)大学院の取組	11
(6)短期大学部の取組	13
(7)附属城東高校の取組	15
(8)経営力強化の取組	17
(9)学園運営に対する外部評価	19
III.学園のプロフィール	
(1)学園の沿革	21
(2)マスタープランの概要	23
(3)キャンパスの概要	25
IV.教育改善・研究高度化・キャリア教育・就活支援の具体的取組状況	
(1)教育改善の取組	27
(2)研究高度化の取組	29
(3)キャリア教育・就活支援の取組	31
(4)グローバル化の取組	33
(5)ラーニングサポートの取組	35
(6)キャンパスライフサポートの取組	37
(7)産業界・他大学・地域社会連携の取組	39
V.バックデータ集	41

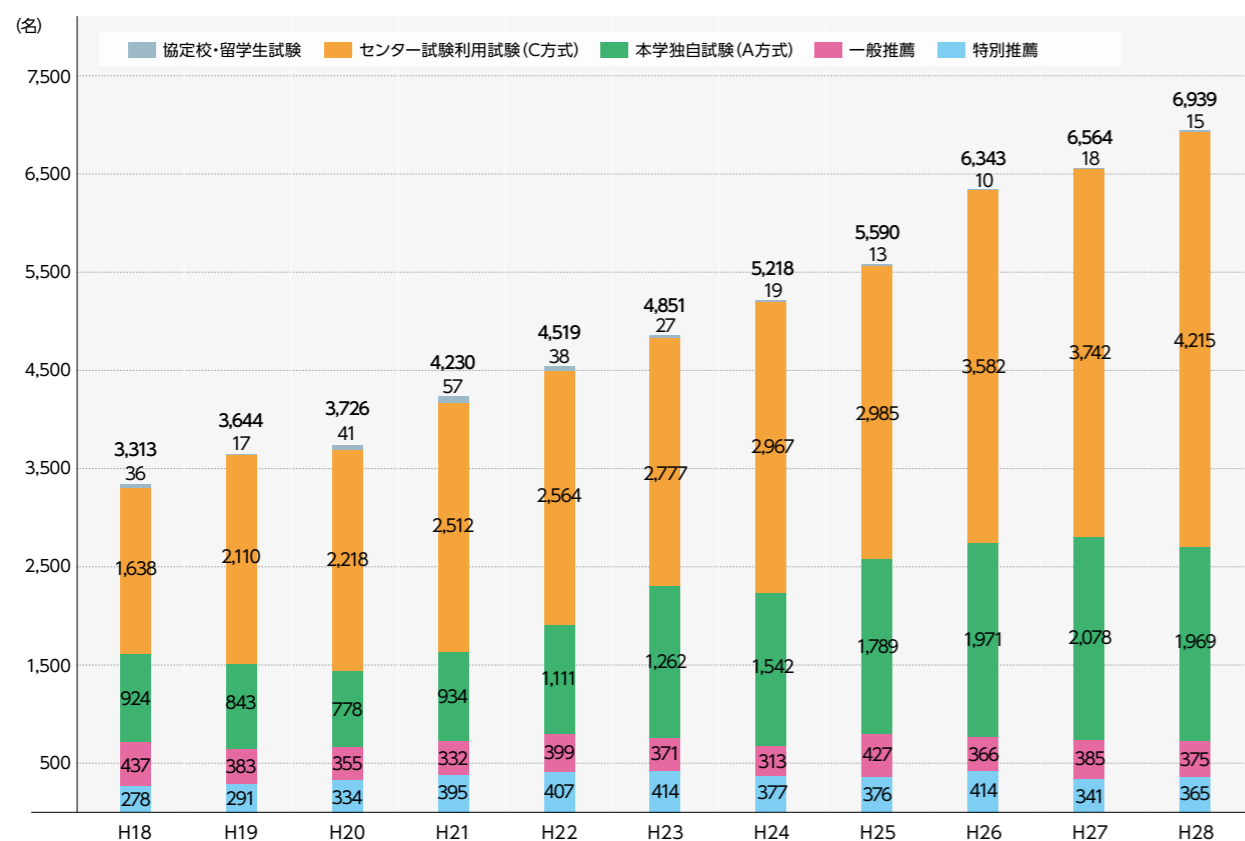
大学は10年連続で入学志願者が増加しました。 入学者も安定的に確保しています。

全国の私立大学の約4割が入学定員を確保できない中、特に九州・山口地区ではたいへんな苦戦を強いられている中で、本学は順調に入学志願者を増加させています。従って、毎年の入学者も所定人員を安定的に確保しています。

一般入試の入学志願者がさらに増加

平成18年度には3,313名だった入学志願者は、平成28年度(当年度)入試では6,939名となり、2倍以上に増加しました。女子の志願者は3学部ともに増加し、志願者のおよそ2割に達しました。

■大学の入試種別ごと志願者の推移



▶ 「10年連続の入学志願者増加」は、全国の私立大学(増え始め初年度の志願者数が1,000名以上の大学)で唯一本学のみです。

教育・研究活動の積極的情報公表による学生募集活動を強化

受験生の不安解消、高校や保護者からの信頼向上に向けて、オープンキャンパス、入試相談・説明会等の募集活動で、教育・研究活動の取組状況や成果を積極的に公表しました。また、高校生対象の模擬講義、ものづくり学習会を参画型の内容に変更し、さらに、大学授業や研究室の公開を増やすなど、体験の機会を拡大しました。



入試相談会



授業公開



研究室公開

高校と大学の教育活動連携を推進

高大の連携は、双方にとって有用であることから、サイエンスパートナーシッププログラム(SPP)として理科実験出前授業、教員免許更新時講習、福岡県工業高校クラブ連盟主催の生徒研究発表会等を積極的に開催・サポートしました。今後、いっそうの連携強化に向けて、他大学等と共同で「高大接続」を拡大する予定です。



理科実験出前授業



生徒研究発表会



高大接続研究会



高大連携授業

▶ 今後拡大を予定している主な取組

- 中村学園大学・西南学院大学・福岡工業大学と福岡県内高校との高大接続教育研究会
- 附属城東高校との高大連携授業(Jプラス)
- 近隣高校との高大連携セミナー

教育改革の取組は高く評価され、国等の支援事業に数多く選定・採択されました。

本学の教育改善の取組が高い評価を受け、国等の選定・採択難易度の高い支援事業に数多く採択されました。これらの実績は、過年度から大学ランキング等で全国屈指の水準と評価されています。教育力向上は、学生が研究発表等で得る高評価にも繋がっています。

文部科学省大学支援事業採択数ランキングで高評価(全国5位)

文部科学省大学支援事業採択数ランキング「サンデー毎日(1月3日、10日新春合併号)」で、昨年に引き続き全国私大中5位に入りました。「小規模ながら面倒見がよく、就職力には定評がある。志願者を増やし続けている。」として高く評価されています。

■文部科学省支援事業採択数ランキング「サンデー毎日(2016年1月3日-1月10日 合併号)」

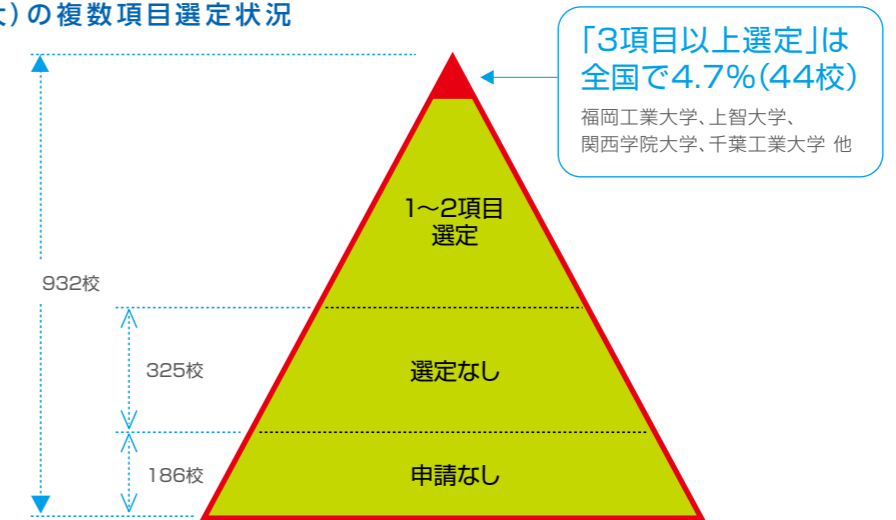
順位	大学名	所在地	採択件数合計	私立大学等改革総合支援事業												
				スリーパー・グローバル大学創成支援	グローバル人材育成推進事業	大学の世界展開力強化事業	日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業	大学教育再生加速プログラム	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業	大学間連携共同教育推進事業	情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業	タイプ1 (教育の質的転換)	タイプ2 (地域発展)	タイプ3(産業界・他大学等との連携)	タイプ4 (グローバル化)
1	芝浦工業大	東京	9	○	○			○	○	○			○	○	○	○
2	金沢工業大	石川	8					○	○	○			○	○	○	○
3	上智大	東京	7	○	○	○							○	○	○	○
	関西学院大	兵庫	7	○	○	○							○	○	○	○
5	共愛学園前橋国際大	群馬	6		○			○	○				○	○	○	○
	創価大	東京	6	○	○				○	○					○	○
	早稲田大	東京	6	○	○	○				○					○	○
	京都外国語大	京都	6						○	○			○	○	○	○
	京都産業大	京都	6		○					○			○	○	○	○
	福岡工業大	福岡	6							○	○	○	○	○	○	○
	西九州大	佐賀	6					○		○			○	○	○	○
12	慶應義塾大	東京	5	○		○				○				○	○	○
	東洋大	東京	5	○	○								○	○	○	○
	法政大	東京	5	○	○					○				○	○	○
	明治大	東京	5	○	○	○							○	○	○	○
	立教大	東京	5	○						○				○	○	○
	立命館大	京都	5	○	○	○								○	○	○

私立大学等改革総合支援事業は3項目選定(932大学中44校)

当支援事業は、文部科学省と日本私立学校振興・共済事業団が一体となって、教育改革に積極的な大学等を支援する事業です。平成27年度は①教育の質的転換、②地域発展、③産業界・他大学との連携の3項目に選定されました。また、短大も新たに1項目(教育の質的転換)が選定されました。

■全国私立大学等(大学・短大)の複数項目選定状況

全国私立大学等(932校)のうち746校が申請し、その中から421校が選定を受けました。3項目以上に選定されたのは、全国私立大学等のわずか4.7%(44校)でした。



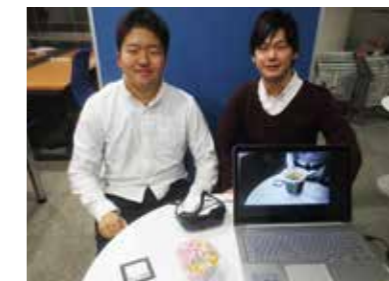
▶平成27年度は、本事業の選定が申請要件となる文部科学省私立学校施設整備費補助金に4件(図書館改修事業等)が採択され、本学の教育・研究環境の充実が大きく進展しました。

文部科学省の教育改革支援事業等に数多く採択、学生の研究活動も活発化

アクティブラーニング、就業力育成、情報処理・編集技術の育成等の教育改善の取組は、継続して文部科学省支援事業の対象となりました。学生主体の研究活動も活発化し、文部科学省主催「サイエンス・インカレ」において「国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞」及び「審査員奨励賞」を受賞しました。



第5回サイエンス・インカレ 国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞、審査員奨励賞 受賞メダル



「拡張現実感を用いた味覚操作システムの開発」で理事長賞等を受賞した中野さん(福岡工業高校)と津田さん(中間高校)



左記、発表の様子



サイエンス・インカレ 受賞者・発表者



「STEM教育の考えに基づく高大連携授業の教育効果」で口頭発表を行った吉武さん(筑紫中央高校)と坂本さん(福岡西陵高校)



サイエンス・インカレ研究発表会 会場

▶この他、学生主体の研究発表が学会等で数多く表彰されました。(詳細はP.49「バックデータ集」参照)

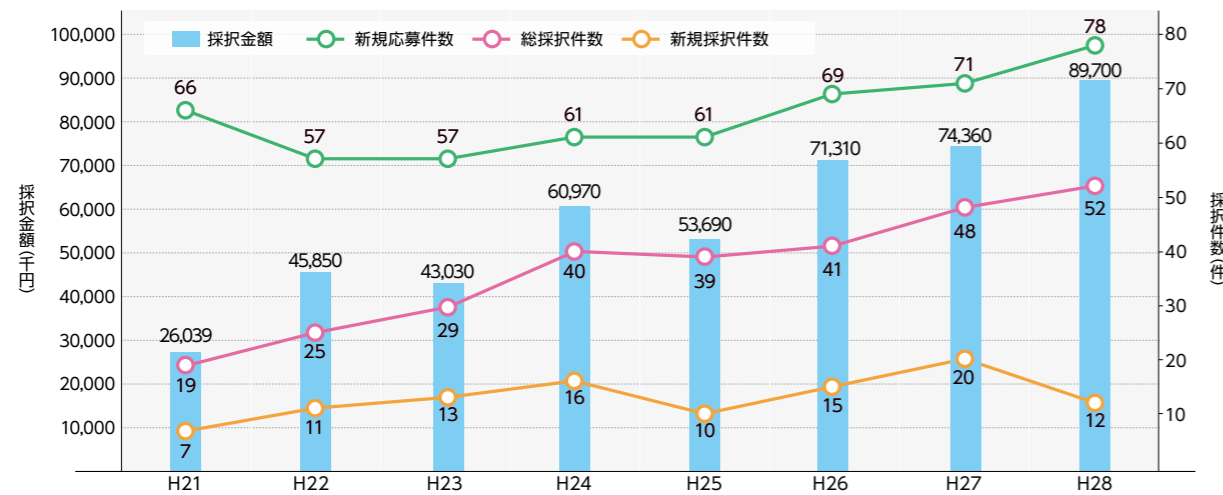
国や企業の研究支援事業の採択は「過年度最高」となり、 国の技術発展に貢献するプロジェクトも新たに始動しました。

研究基盤整備や研究支援体制整備を積極的に進めた結果、採択難易度の高い研究助成事業への採択が増加しています。国・地方公共団体及び外郭団体、企業等からの研究支援は拡大し、地域の研究拠点としての機能を確立しています。

科学研究費の採択は「過年度最高」を更新し、研究評価ランキング等で高い評価

採択件数・金額ともに「過年度最高」を再び更新。直近3か年(26～28年度)の合計採択額は、前3か年(23～25年度)合計と比べ1.5倍に増加。研究誌の研究評価ランキングも向上しました。(科学研究費採択テーマ:「DNAの分子情報で無機ナノシートを操る」(国際共同研究加速基金)等52件の採択)

■ 科研費推移グラフ (H21-28、短期大学部を含む)



■ 科学研究費新規採択率(短期大学部を除く)
(平成27年度、応募件数50件以上)

23.90%

全国の理工系私立大学中第1位

〈独立行政法人日本学術振興会公表資料を集計〉

■ 国際共著論文の割合(※1)
(平成23～27年の実績)

43.40%

全国の国公立大学中第2位

〈出典:大学ランキング2017(朝日新聞出版)〉

■ 専任教員に占める博士号取得者の割合
(平成27年度、専任教員100名以上在籍大学)

89.58%

全国の私立大学中第7位

〈出典:大学ランキング2017(朝日新聞出版)〉

■ 教員一人あたり論文数
(平成23～27年の総論文数/教員数)

7.46本

全国の国公立大学中第25位

〈出典:大学ランキング2017(朝日新聞出版)〉


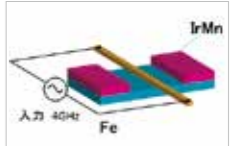

※1 日本以外にある研究機関と共著で書かれた論文の割合

▶ 科学研究費(科研費)助成事業は、多領域の学術研究を飛躍的に発展させることを目的とする競争的研究資金であり、独創的・先駆的な研究を助成する制度です。

国(独立行政法人)の受託研究や企業との共同研究が活発化。研究費は大幅に拡大

研究スタッフ、研究装置・機器、外部連携・協力体制の充実により、研究件数・金額ともに大幅に拡大(件数50件、金額44百万円、24年度比約2倍)しています。当年度は、発電技術、通信技術、蓄電技術の開発研究が進展し、当該研究事業が、国や独立行政法人、企業などの採択難易度の高い支援事業に採択されました。

■ 国(独立行政法人)や企業との主な受託研究・共同研究の例

相手先	学科	研究者	研究テーマ	主な用途
(株)技術開発 コンサルタンツ	知能機械 工学科	阿比留久徳	フラット水力発電装置の 開発	小川の流水を活用した農業用電力の発電など 
総務省 九州総合通信局	電子情報 工学科	家形 諭	第5世代移动通信に向けた 高周波共振子の研究開発	スマートフォンなどモバイル機器に 搭載されるフィルタ素子など 
(株)紅乙女酒造	電気 工学科	田島 大輔	焼酎製造時に大量に生じる 「焼酎かす」を活用した 充電電池の開発	電気自動車、小型モバイル機器、 家庭用蓄電システムなど 

文部科学省の大型プロジェクト研究支援事業に採択

次世代ディスプレイ装置や太陽電池、医療技術への応用が期待されるナノ素材を活用した研究開発プロジェクトが、文部科学省私立大学等戦略的研究基盤形成支援事業に採択されました。これは、マイクロ/ナノ金型開発センター、ハイテクリサーチセンター、先端計測技術研究センターの各整備事業に次いで4件目の採択です。

■ 文部科学省大型研究補助事業への近年の採択状況

<p>■ 研究テーマ:物質・エネルギーデバイス研究センター整備事業</p> <p>■ 採択年度:平成27年度</p> <p>■ 期待される用途や効果</p> <p>無機ナノシートを複合化した新開発素材によるウェアラブル端末や歩行・波力発電への展開が期待される革新的エネルギーデバイスの開発</p> 	<p>■ 研究テーマ:先端計測技術研究センター整備事業</p> <p>■ 採択年度:平成25年度</p> <p>■ 期待される用途や効果</p> <p>マイクロ波レーダー計測と画像センサ計測を組み合わせた4次元総合解析による津波予測システムの開発</p> 
<p>■ 研究テーマ:ハイテクリサーチセンター整備事業</p> <p>■ 採択年度:平成17年度</p> <p>■ 期待される用途や効果</p> <p>微生物とオゾン分解フィルターを組み合わせた排水浄化システムを開発し、酒類製造プロセス等で発生する廃棄物浄化に活用</p> 	<p>■ 研究テーマ:次世代マイクロ/ナノ金型開発センター整備事業</p> <p>■ 採択年度:平成16年度</p> <p>■ 期待される用途や効果</p> <p>ナノレベルの精密加工技術を開発し、自動車産業等で求められる精密金型製作に活用</p> 

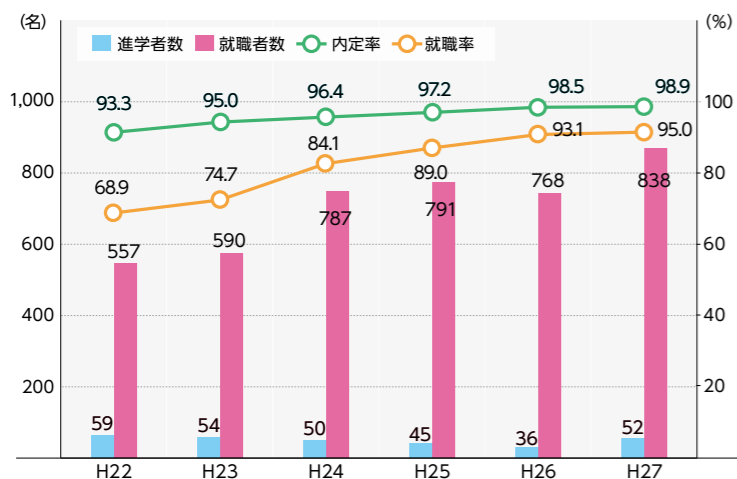
キャリア教育・就活支援プログラムの内容充実と企業の強力サポートによって、就職状況は「過年度最高」となりました。

キャリア教育カリキュラムを体系的に整備し、入学初年度から段階的に就業力を育成しています。就活支援では、個別指導(全員面談)はもとより、東京・大阪事務所の設置や企業ネットワーク形成、就活費用援助等の様々なサポートを行っています。

就職率、実就職率などの就職関連指標は「過年度最高」

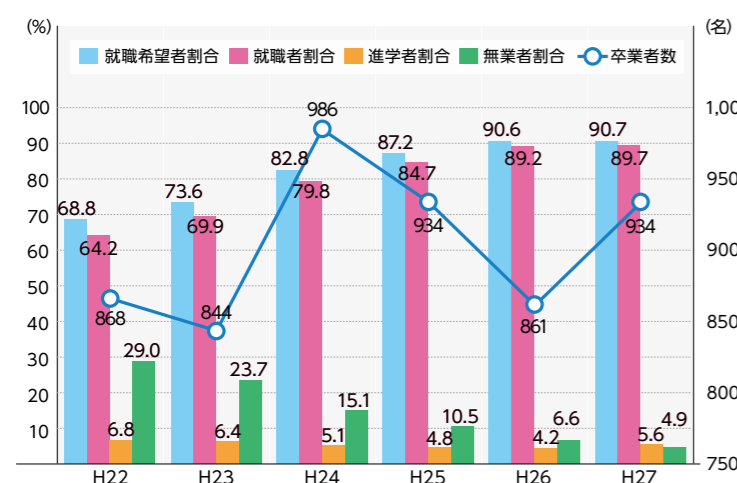
大学の就職率は、6年連続で向上しました。全国や福岡県の平均水準を上回って推移しています。ニート・フリーター比率は、キャリア教育を入学後早期から施すことによって就業意識を高めていること等により毎年低下、当年度は近年で最低となりました。

進路決定状況推移



就職率 **98.9%**
実就職率 **95.0%**

卒業生に対する就職希望者・就職者等割合推移



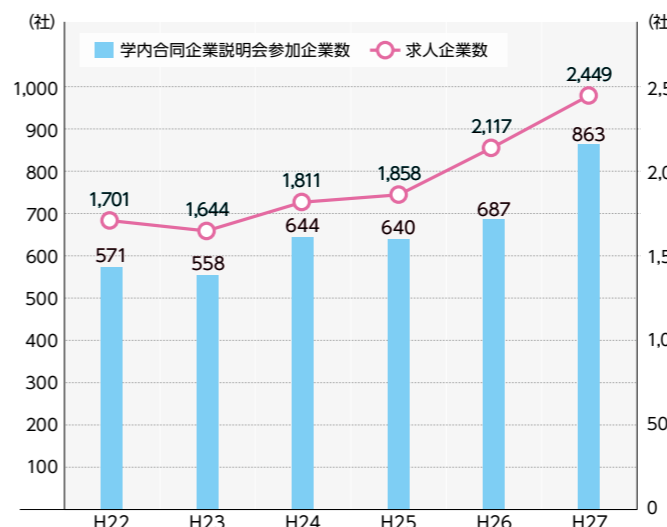
▶ 就職率=内定者数÷就職希望者数、実就職率=内定者数÷(卒業生数-大学院進学者数)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
卒業生数	868	844	986	934	861	934
就職希望者数	597	621	816	814	780	847
就職者数	557	590	787	791	768	838
進学者数	59	54	50	45	36	52

企業の強力サポート、広範な企業ネットワークの形成

東京・大阪事務所・リエゾンオフィスの活動で、関東・中京・関西・九州・山口の広範な企業ネットワークを形成しています。多くの企業から、OBによる企業セミナーや企業交流会参画、インターンシップ受入れなど多方面のサポートを得ています。学内合同企業説明会の参加企業数は毎年増加、当年度は「過年度最高」となりました。

学内合同企業説明会参加企業数、求人企業数



学内合同企業説明会の様子



▶ 約7割の学生が学内合同企業説明会で就職内定

キャリア教育・就活支援プログラムで「就業・就活力」を強力サポート

「キャリア形成」や「就業実習」等のキャリア関連授業科目の中で、自己実現のための目標設定や到達状況の確認等を行ってきました。その学びを確実に就職に結びつけるため、就活支援プログラムとして、学科別担当教職員配置、履歴書作成や面接対策の個別指導、就活費用援助等を系統的に行いました。

キャリア教育プログラム



「キャリア形成」授業



「情報技術史」(キャリア教育科目)公開講義



インターンシップ

就活支援プログラム



保護者向け就活セミナー



面接対策指導



学内合同企業説明会・個別選考会

大学院の研究活動はいっそう活発化。 高度な研究者・職業人を育成・輩出しています。

工学研究科(修士課程・博士後期課程)と社会環境学研究科(修士課程)を設置しています。科学技術の「高度化・国際化・情報化・環境調和型社会」に貢献できる高度な技術者・研究者を育成しています。学生の研究活動サポート策を数多く実施し、進路決定状況は良好でした。

研究活動、キャリア形成、就職活動、それぞれのサポートを積極化

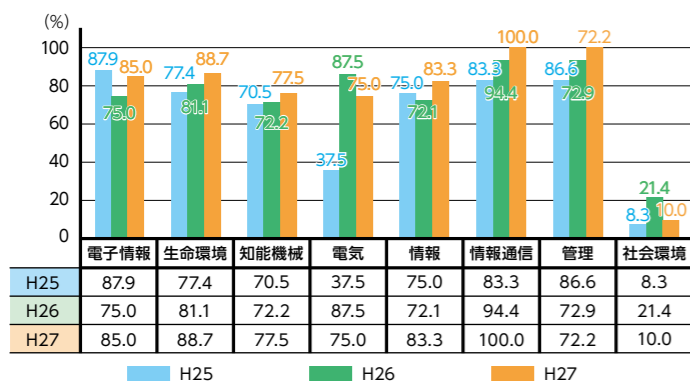
研究活動に集中し研究成果を拡大できるよう、奨励金支給制度・学業特待制度・国内外学会発表時の交通費補助等の経済的支援、大学院キャリア形成プログラム、就活支援等のキャリア支援等、多岐にわたるサポートを実施しています。

■学業優秀者を対象とした奨励金支給制度

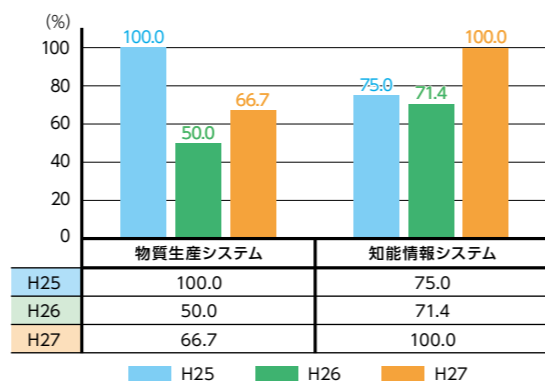
本学の学業優秀な学部生が、経済的な理由で大学院進学を断念することがないように大学院修士課程在籍中に奨励金を支給する制度

採用者数：各専攻2名以内 特典：毎月8万円の奨励金支給(最大24か月)

■過年度3年間の学会学生参加率上昇(修士課程)



■過年度3年間の学会学生参加率上昇(博士後期課程)



■STAR PROGRAM(シリコンバレー教育プログラム)

大学院キャリア形成プログラムをシリコンバレーで約10日間実施。「グローバルマインド」を身に付けた高度IT技術者の育成を目的とする。



学生の研究活動は活発化・高度化。外部からも高い評価

教員の研究指導のもとで学生の研究活動は活発化し、学生は国内外の学会での発表や論文による研究成果の公表などを積極的に行いました。一連の取組が、学会等での高い評価や、極めて採択難易度の高い日本学術振興会特別研究員への採用につながりました。

■学会表彰等の例



IEEE WAINA-2015 BEST Paper Award
システムマネジメント専攻 三重野雄太さん(大分西高校)
藤岡教授

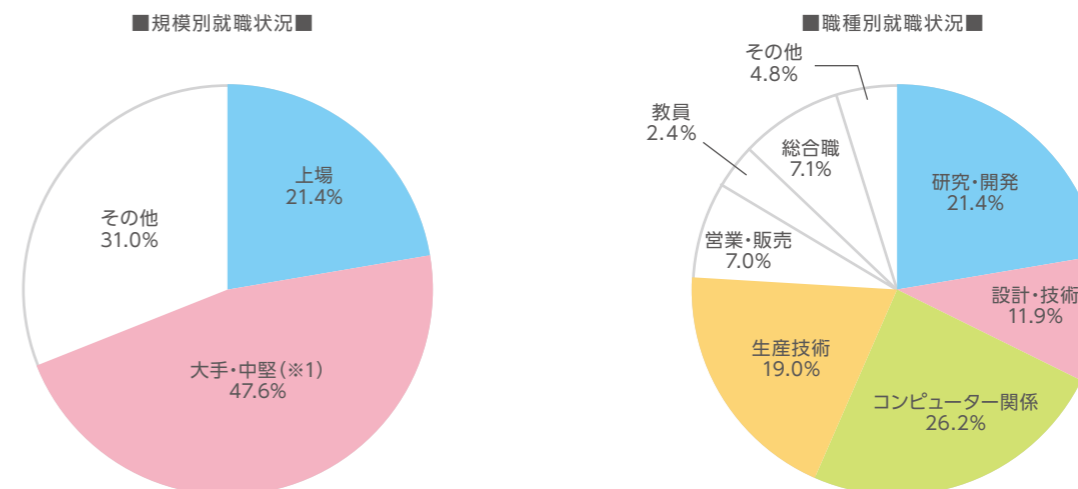
国際会議ICEECE'2015 セッションベストペーパー賞
電子情報工学専攻 安部寛二さん(香椎工業高校)
江口教授

日本学術振興会特別研究員に採用
坂本真仁さん(稲築志耕館高校)

教育研究水準の高度化に伴い大学院生の進路決定状況は向上

学生の研究水準が高度化したことや教員による企業訪問によって認知度が高まったこと、留学生の就職率が向上したこと等により、大学院生の進路決定状況は良好でした。上場企業や大手・中堅企業(資本金3億円以上または従業員300人以上)への就職率が約7割となり、また研究・開発職への採用も増加しました。

■大学院の就職状況



※1 資本金3億円以上または従業員300人以上

就職率 **100.0%** 実就職率 **89.4%**
全修了者数52名 就職希望者数42名 就職内定者数42名 進学者数5名

■主な就職先(過去3年間)

東芝、ヤマハモーターエンジニアリング、宇宙技術開発、ミズノテクニクス、三菱電機インフォメーションシステムズ、富士通エフサス、JFEシステムズ、リンテック、IHI検査計測、ゼンリン、日立ソリューションズ、日本デジタル研究所、NTT西日本、アイシン精機、東芝機械、JR九州ホテルズ、三菱電機プラントエンジニアリング、日立プラントメカニクス、サン情報サービスなど

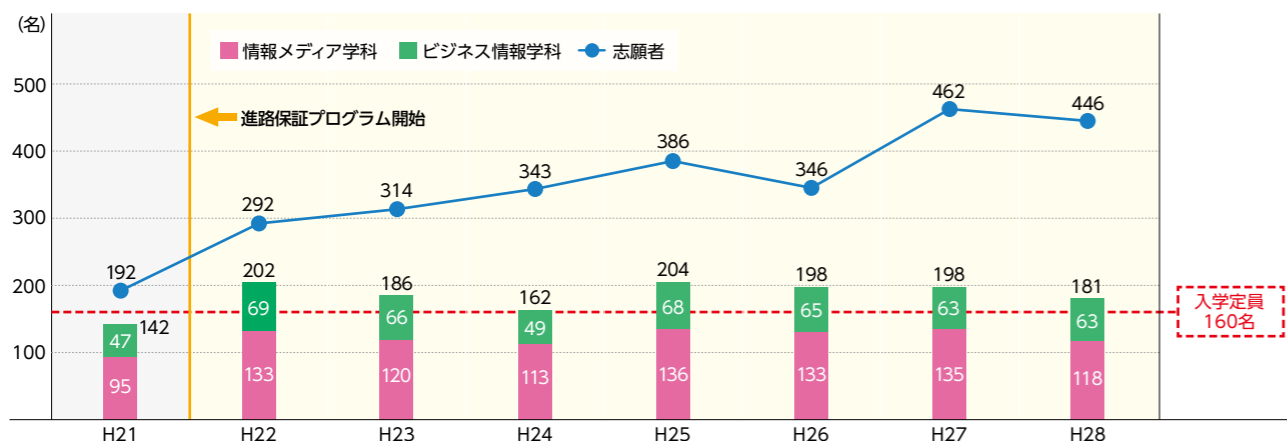
短期大学の進路決定状況は「過年度最高」。 入学志願者は増加傾向、入学者の確保も安定しています。

学生一人ひとりに、教職員一人ひとりが、「親身になって」「親代わりに」「厳しく」関わり、その教育の考え方や学生の成長が企業や地域等から評価され、進路決定の良好さや安定的な入学者の確保につながりました。

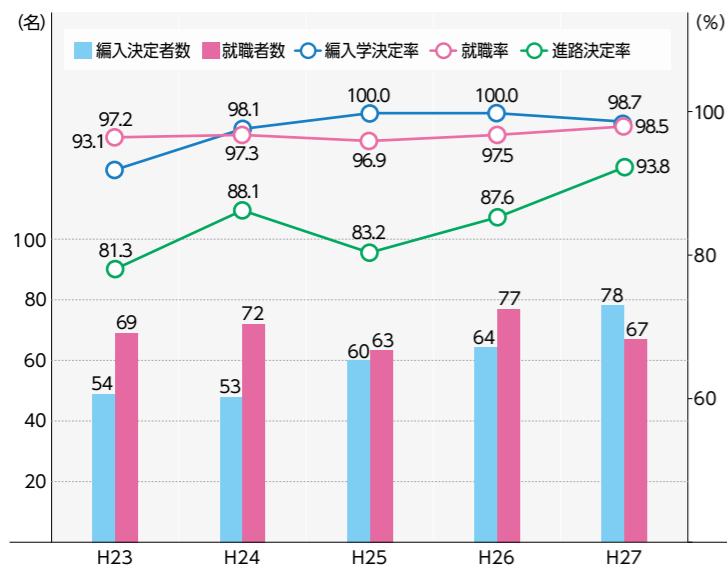
進路決定率は「過年度最高」の93.8%。入学志願倍率は定員の2.7倍を確保

平成28年度入試の入学志願倍率は2.7倍(2年連続で志願者400名以上の高位を維持)、入学定員充足率は113%となりました。全国の短大の約6割が定員割れする中で健闘しています。進路の状況も就職、編入学ともに近年では最良、極めて良好な結果となりました。

■ 志願者・入学者の推移グラフ



■ 進路決定状況推移グラフ

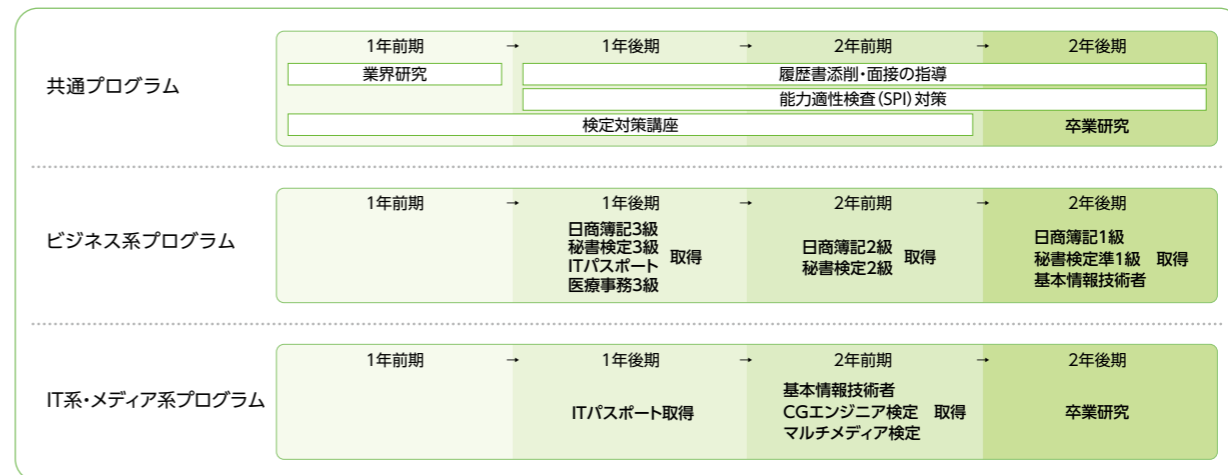


▶ 編入学合格者数(延べ数)：九州工業大学3名、鹿児島大学3名、宮崎大学1名、香川大学1名、高知大学1名、琉球大学1名、福岡工業大学58名、その他私立大学14名

進路保証プログラム(就職力強化)の取組が「就職決定」に大きく貢献

進路保証プログラムは、2年間の進路別学習プログラムを実施、進路決定率の向上を図ります。学生一人ひとりの学習・学生生活に深く関わり、確実に学力・意欲・社会性を向上させ、「目指す進路の実現」を図りました。就職支援に関して、希望職種別特別支援、ゼミ単位の特別支援、就職に有用な資格取得支援などを行いました。

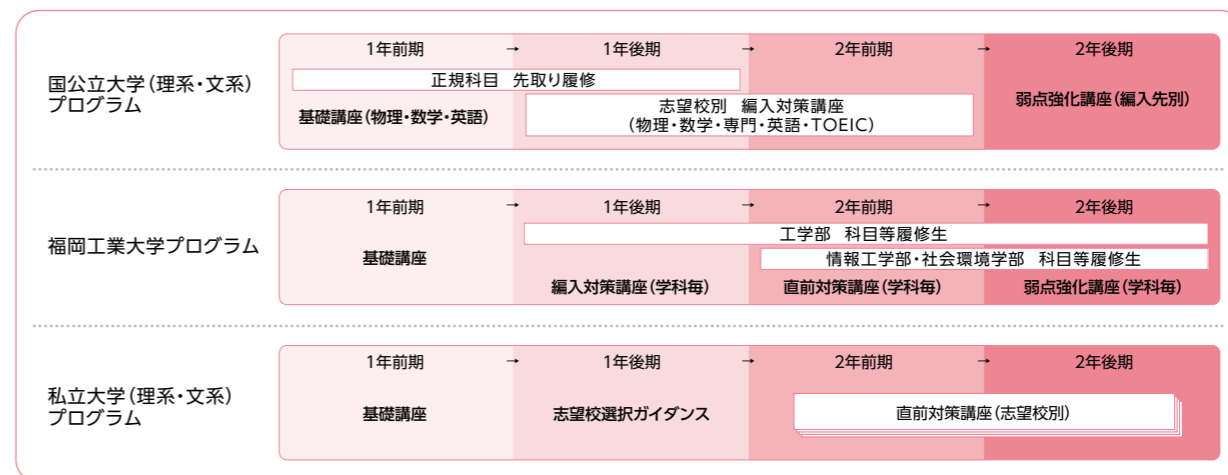
■ 就職教育プログラム



進路保証プログラム(編入学強化)の取組が「4年制大学編入」に大きく貢献

編入学支援の進路保証プログラムでは、大学編入学試験合格の対策講座として、英語、数学、物理、小論文について、早期集中課外講座、個別添削指導、外部試験(TOEICなど)活用などを行っています。その成果は毎年向上しています。

■ 編入学教育プログラム



■ 編入学支援プログラムの例



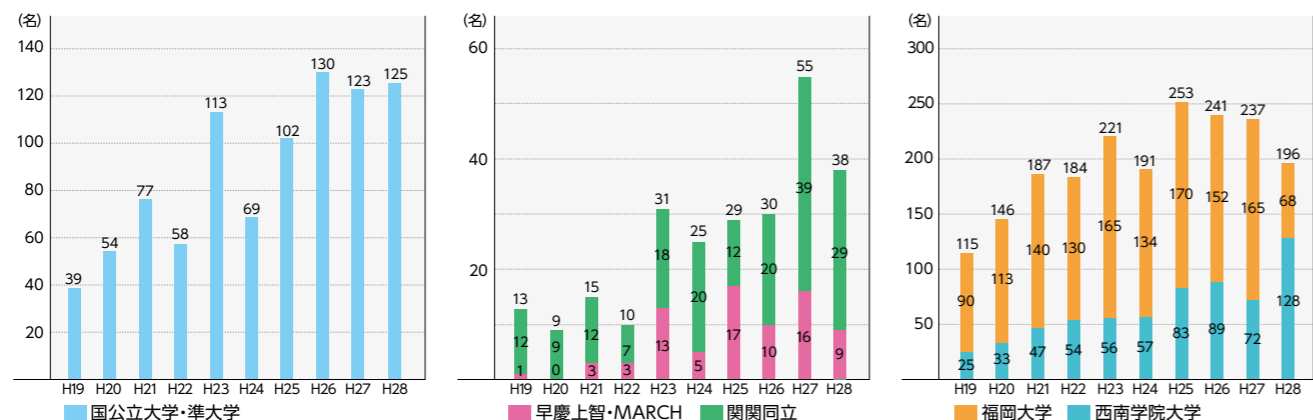
城東高校は、進学・就職・課外活動の実績が継続して良好。 入学志願者・入学者は高位安定的に推移しています。

学校改革元年(平成12年)以降、「進路保証」「資格取得支援」「部活動の活性化」に重点をおき、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かな教育と生徒指導を行っています。学業からスポーツまで、多岐にわたり活動は活発化し、進学・就職・課外活動のいずれも大きな成果が生じています。

国公立大合格実績は4年連続で改革目標(100名合格)を達成。就職率も3年連続で100%を達成

進学対策は、難関大学特別学習会、個別指導など、20数種の学習・教育方法の改善に取り組みました。就職対策も「就職率100%」を目標に、様々な支援を行いました。特に、資格取得支援の実績は、第二種電気工事士合格率の「2年連続全国2位」をはじめ、たいへん良好でした。

■ 過年度10年間の合格者推移



■ 過年度10年間の就職状況推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
就職対象者	95	95	116	78	77	73	69	50	72	84	84
就職希望者	95	95	116	78	77	73	69	50	72	84	84
就職希望率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職者	95	95	116	78	77	73	68	50	72	84	84
就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

就職対象者: 卒業者数-進学者数等



福岡工業大情報工学部との高大連携課外授業 (平成27年11月)
電気科・電子情報スペシャリストコースの15名が参加



カタリバ(平成27年9月)
大学生・社会人との対話を中心としたアクティブ・ラーニング形式の授業



世の中研究会(平成27年12月)
福岡県職員を招いて講義とワークショップを実施

▶ 進路意識の向上を目的に「総合学習時間(Jプラス)」での高大連携課外授業を実施。また、新たなキャリア教育として自己表現力を高める「カタリバ」や社会課題発見プログラム「世の中研究会」も実施。

部活動はいっそう活発化。ダンス部は世界大会で二連覇を達成

部活動は人間性や社会性を育む重要な教育の機会として指導に力を注いでいます。今年度も、ダンス部の世界大会二連覇をはじめ、学術・文化からスポーツまで、国外でも優秀な成績を修めるなど、いっそう活発化しています。



ダンス部 Miss Dance Drill Team International USA 二連覇



野球部 第136回九州地区高等学校野球福岡大会優勝



科学部 日本水産学会春季大会高校生による研究発表 奨励賞



第35回全国高等学校IT・簿記選手権大会出場



全国高等学校ダンスドリル大会二連覇



吹奏楽部 全国吹奏楽コンクール銀賞受賞



科学部 タイ王立サイエンスフェアタイ・日本生徒理科発表会出場



第15回全国高校生ロボット相撲大会自立型、ラジコン型3位

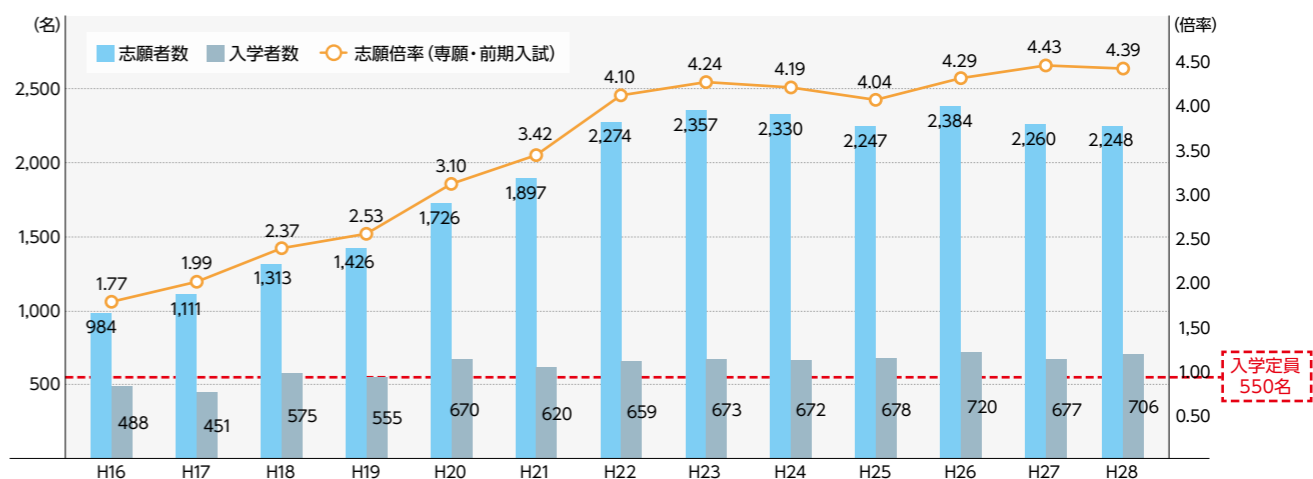
入学志願者・志願倍率ともに、県下トップクラスで推移

入学志願者は、改革元年(平成12年)以降右肩上がりの増加傾向です。平成22年度に2,200名(定員の4倍)を超え、平成26年度には2,384名に達し、福岡県トップ(平成27年度入試も福岡県トップの入学志願倍率)となりました。以降、この高い水準を維持しています。

■ 過年度の入学志願者・志願倍率などの推移

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
志願者数	984	1,111	1,313	1,426	1,726	1,897	2,274	2,357	2,330	2,247	2,384	2,260	2,248
入学者数	488	451	575	555	670	620	659	673	672	678	720	677	706
入学定員	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550
志願倍率(専願・前期入試)	1.77	1.99	2.37	2.53	3.10	3.42	4.10	4.24	4.19	4.04	4.29	4.43	4.39

■ 城東高校 過年度志願者・入学者推移・志願倍率推移



▶ 平成27年度学校説明会参加者(生徒)は3,238名と「過去最高」

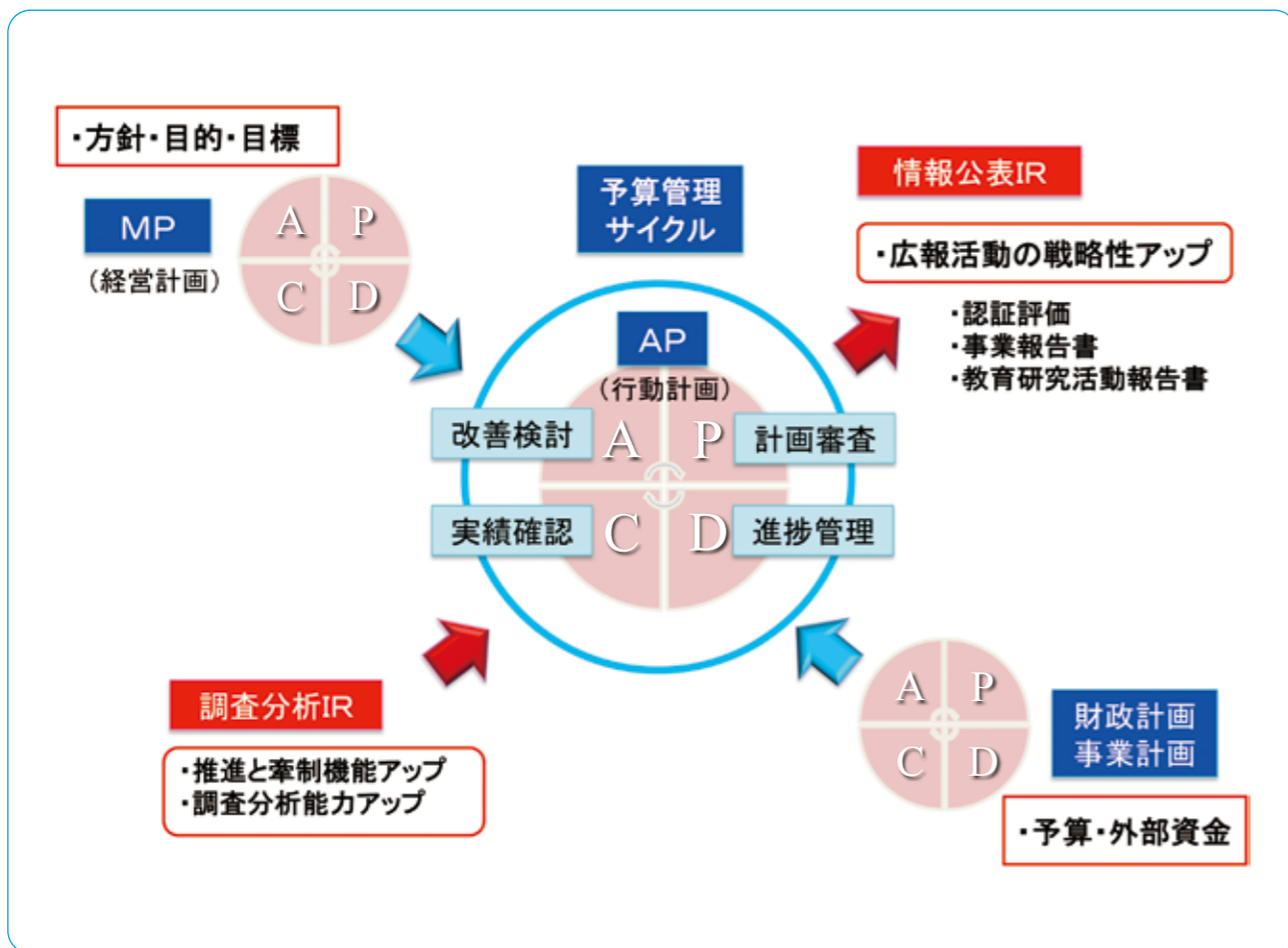
経営効率化で、「教育・研究活動への積極的な財政支援」と「低学費」を両立させています。

経営・財政運営の基本方針は、「安定した財政基盤のもとで、教育・研究活動へ積極的に資金投下する」ことです。PDCAによる経営管理の仕組みによって、経営の効率化・安定化を追求し、全国屈指の低学費でありながら活発な教育・研究活動ができています。

PDCAによる経営管理システムで学園の経営効率化を実現

PDCAサイクル(Plan:具体的な計画、Do:確実な実行、Check:実績の点検・評価、Action:評価に基づく改善)によって、経営計画や教育・研究計画の実現性や費用対効果を向上させ、経営を効率化しています。

PDCAによる経営管理システム

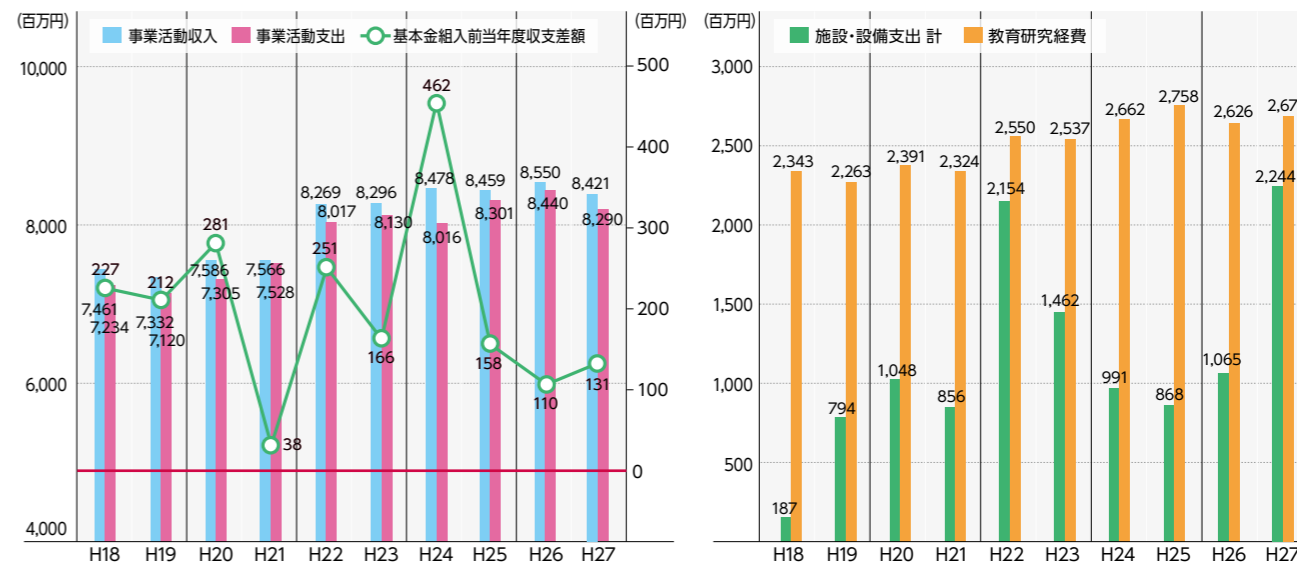


▶ MP:経営計画 AP:1年間の教育・研究等の計画 IR:調査分析と情報公表

継続的に財政を安定させ、積極的に教育・研究活動へ投資

教育・研究活動とそれらの環境整備への積極的資金投下を行うために、収支差額プラス(収入-支出=黒字)の目標額を低めに設定して、ゆとりある投資資金を確保しています。「低学費でありながら教育・研究活動は活発であること」が財政運営の基本方針です。

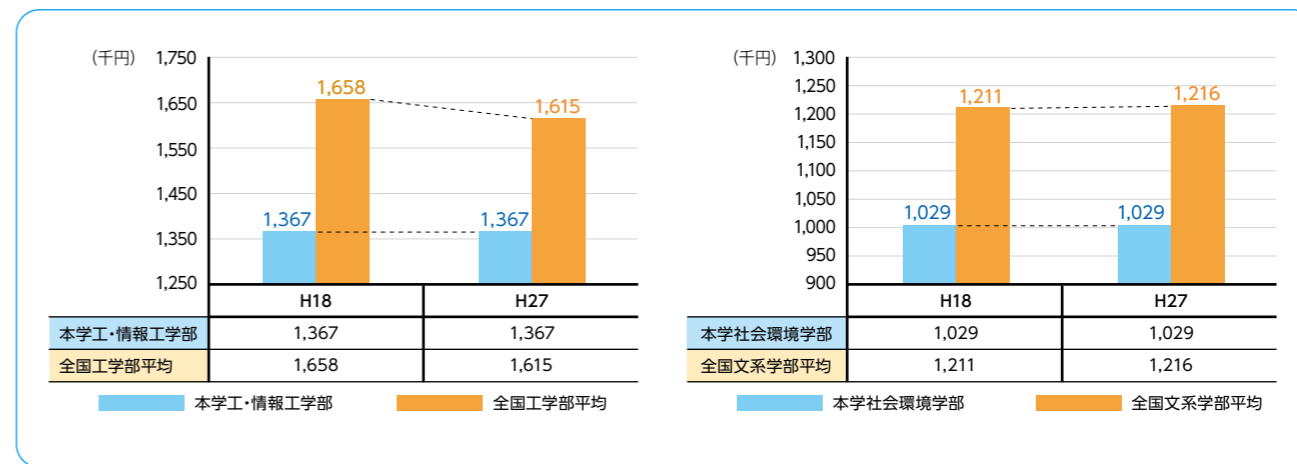
■基本金組入前当年度収支差額・施設設備支出・教育研究経費推移



全国屈指の低学費で経済的負担を軽減

一般的な大学と比べて低学費を維持しています(大学院・短大・高校も同様)。「経済的な理由で退学や休学となる学生・生徒をなくしたい」との考えによります。近年では、経済的理由で退学になる学生は、全国の平均的水準と比べても少なくなりました。

■大学・学部の学費相対比較



▶ 経済的理由で休・退学となる学生も全国平均を大きく下回っています。(経済的理由による退学率は約1%程度)

経営力、人材育成・輩出力の高さは特に高い評価を受けています。

経営・財務の外部評価(格付審査)について、「受審準備や評価結果が、本学園の経営状況の調査・分析、点検・評価の一助として極めて有効」と判断しています。従い、法定の自己点検評価、経営計画や財政計画の履行点検、内部監査的IR等に活用しています。

経営体制とそのガバナンス(経営手法など)に対して継続して高い評価

第7次マスタープランの検討プロセス(現状認識、課題設定、課題達成に向けた方策検討)の適切さ、「法人・教員間のガバナンスの良好さ」や「志願者増加・入学者の質向上・教育効果の確かさ・良質の人材輩出がスパイラルアップ」との評価がなされました。

■格付会社2社から格付を取得(R&I:株)格付投資情報センター JCR:株)日本格付研究所)

経営・財務の安定性で高い評価

R&I格付

A

平成22年度から6年連続[A]

JCR格付

A+

平成25年度から3年連続[A+]

格付会社の評価ポイント

- ◎実質的な有利子負債はなく、財政の健全性は十分保たれる見通しである。
- ◎学生サポート力、人材輩出力、情報発信力はきめ細かく、熱心、適時・適切、品質向上している。

▶高い評価の一方で、グローバル化教育における中下位層の底上げ、大学院の強化、研究内容のさらなる高度化、収入源の多様化などの新たな課題もあり、これらへは第7次マスタープランで改善に着手しています。

人材育成・輩出力は、大学情報誌などで高評価、広く全国で紹介

「文部科学省大学支援事業採択数ランキング」は全国5位、「実就職率(工学部)ランキング」は全国9位にランクされたことをはじめ、人材育成・輩出に関するランキング指標が、昨年度に比べ軒並みランクアップしました。

■主要ランキング

面倒見が良い大学 九州私学 1位 (全国17位)	就職に力を入れている大学 九州私学 1位 (全国18位)	改革力が高い大学 九州私学 1位 (全国34位)	小規模だが評価できる大学 九州私学 1位 (全国17位)
大学探しランキングブック 2016大学通信 (2015年12月発行)			
地域貢献度ランキング 九州私学 1位 (全国36位)	文部科学省大学支援事業採択数ランキング 九州私学 1位 (全国5位)	実就職率ランキング(理工系)工学部 九州 1位 (全国9位)	未来系新分野(知能ロボティクス) 九州 1位 (全国8位)
▲日経グローバル (2015年12月7日発行)	▲サンデー毎日 (2016年1月3・10日合併号)	▲サンデー毎日 (2016年1月3・10日合併号)	▲Forbes JAPAN (2015年10月号)

経営・財政・IR(調査・分析、情報公表)は、大学研究誌等で先進事例として数多く紹介

経営管理の仕組みやその成果について、日本私立学校振興・共済事業団や独立行政法人大学改革支援・学位授与機構、並びに日本私立大学協会の調査・研究で高い評価を受けました。この他、予算管理、情報公表、職能開発(SD)の仕組みについて幾度となく調査研究の対象となり、好事例として全国に数多く紹介されています。

 <p>「大学経営強化の事例集」 文部科学省委託研究において、本学の経営計画およびその実行計画の管理運営システムについて、数少ない好事例として紹介されました。 (2007.3)</p>	 <p>「私学経営」 私学経営研究会セミナー(東京・大阪の二地区で開催)における常務理事の経営管理に関する講演の抄録が掲載されました。 (2008.3)</p>
 <p>「学校法人」 経費効率化を促し教育効果を向上させる予算制度が構築されているとして、高く評価され紹介されました。(日本私立学校振興・共済事業団レポート) (2008.7)</p>	 <p>「大学外組織評価研究会」 大学評価・学位授与機構の研究で、本学の経営管理システム、特に様々な取り組みの評価活動について、他大学に重要な示唆を与えるとして評価されました。 (2009.3)</p>
 <p>「大学評価・学位研究」 本学のPDCAの一環として行う事業評価・改善の手法が、非営利組織の経営論の権威であるピーター・F・ドラッカーの経営理論との対比によって評価されました。 (2010.3)</p>	 <p>「大学経営の評価システム」 本学のPDCAを基盤とした経営システムが、評価が機能する体制の好事例として取り上げられました。 (2012.3)</p>
 <p>「教学IRとエンrollment・マネジメントの実践」 本学の中期経営計画に基づいた経営管理システムが、実行できる中長期経営計画の作り方の好事例として、常務理事、事務局長のインタビューと併せて紹介されました。 (2012.3)</p>	 <p>「中長期経営システムの確立、強化に向けて」 実効性のある中長期経営システムの構築に関連する事例調査の対象校の一つとして選定され、本学の中期経営計画に基づいた運営の特長が紹介されました。 (2013.2)</p>
 <p>「大学マネジメント改革」 中堅職員対象の渡米研修による職員の企画・開発力養成に向けた取組が、先駆的なマネジメントシステムを担う、職員の能力開発の好事例として取り上げられました。 (2014.3)</p>	 <p>「私学経営」 経営管理システムに内包するSD・OJT機能について、全国の大学関係者の前で講演した内容が、私学経営研究会の会誌に掲載されました。 (2014.5)</p>
 <p>「IDE 現代の高等教育」 本学の中堅職員の渡米研修が、戦略経営人材の育成の好事例として紹介されました。 (2015.4)</p>	 <p>「Between」 対話し、議論する力を独自の成果指標で育成・評価する本学のアクティブラーニングが紹介されました。 (2015.4)</p>
 <p>「カレッジマネジメント」 PDCAサイクルにより大学経営を高度化させる経営管理の仕組みが、他大学の先進事例として紹介されました。 (2015.7)</p>	 <p>「学校法人」 経営計画をサポートする財政計画と予算管理の役割について、セミナー講演の抄録が新春号巻頭で掲載されました。 (2016.1)</p>

「科学技術創造立国」に貢献し得る「九州No.1の教育拠点」の形成を目指してきました。

大学・短大・高校の3校を設置しています。教育・研究領域は情報・環境・モノづくりの分野です。この領域に対応し、組織・体制(学部・学科・研究施設など)を整えてきました。短大・高校も、大学との教育連携や内部進学への推進など三位一体となって発展してきました。

大学・短大・高校の3校を設置。教育連携、内部進学推進等を通じて三位一体で発展

3設置校が三位一体となって、我が国の「科学技術創造立国」や「地元九州・福岡の発展」に貢献することを目指してきました。学生・生徒数は学園全体で約7,000名が在籍し、日々学術研究に勤しんでいます。



工業技術、情報技術、さらに環境技術の進展に合わせて成長・発展

昭和29年以来、高校、短大、大学を順次開設してきました。大学は、工学部を起点に、高度情報社会に対応して情報工学部を、工業技術の環境調和に向けて社会環境学部を開設し、平成25年度に開学50周年を迎えました。国や社会のニーズに応えながら成長・発展しています。

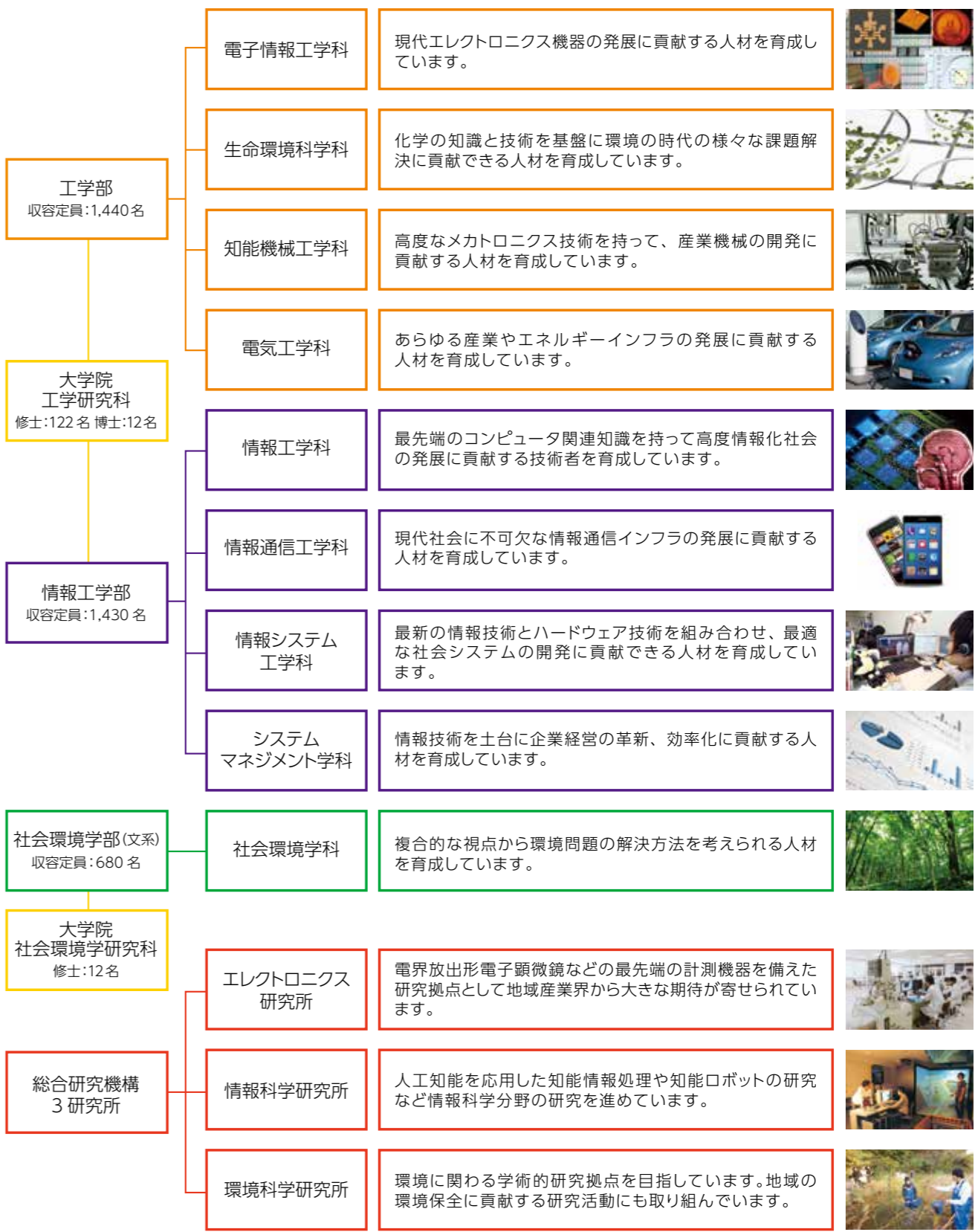
沿革

<p>電気通信技術の普及・振興に向けて—高校、短大、大学3校を開設—</p> <p>昭和29年(1954年) 福岡高等無線電信学校を創設 昭和33年(1958年) 学校法人福岡電波学園福岡電波高等学校を開設 昭和35年(1960年) 福岡電子工業短期大学(電子工学科)を開設 昭和38年(1963年) 福岡電波学園電子工業大学工学部(2学科・電子工学科、電子材料工学科)を開設</p> <p>建設中の校舎(昭和37年頃)▶</p>	<p>工業技術発展と環境の調和した持続可能社会に向けて—文系環境学部の新設で文理融合型大学へ—</p> <p>平成13年(2001年) 大学に社会環境学部(文系)開設 高校の名称を福岡工業大学附属城東高等学校に変更 短大の学科名を情報メディア学科とビジネス情報学科に変更 環境科学研究所開設 平成17年(2005年) 大学院社会環境学研究所修士課程開設 平成19年(2007年) 大学院社会環境学研究所修士課程開設</p> <p>環境配慮と先端設備を同居した新型キャンパスへ転換(平成17年頃)▶</p>
<p>電子技術立国による高度経済成長に向けて—工学系総合大学へ—</p> <p>昭和41年(1966年) 大学の名称を福岡工業大学に変更。学科増設で工学部6学科(電子、電子材料、電子機械、管理、電気、通信)体制に 昭和58年(1983年) エレクトロニクス研究所開設</p> <p>校舎の様子(昭和41年頃)▶</p>	<p>開学50周年・九州No.1の教育拠点に向けて—大学改革のニーズに対応した教育・研究環境の構築—</p> <p>平成25年(2013年) 国際戦略室を設置<国のグローバル戦略への適応目的> 平成26年(2014年) 先端技術地域連携センターを設置<研究成果の地域社会への還元を目的> 大学・地域連携推進室を設置<外部連携による地域発展への貢献を目的> 大学の入学定員を830名から915名(工学部380名・情報工学部375名・社会環境学部160名)に拡大 教養力育成センターを設置<教養教育の見直しとその教育方法等改善を目的></p> <p>環境教育・研究のフィールドとしておとめが池を整備(平成27年4月)▶</p>
<p>高度情報化・工業技術専門化に向けて—情報科学分野の拡充と大学院開設による教育・研究の高度化—</p> <p>平成5年(1993年) 大学院工学研究科修士課程開設 平成9年(1997年) 大学に情報工学部開設(4学科) 平成10年(1998年) 情報科学研究所開設 平成11年(1999年) 大学院工学研究科博士後期課程開設</p> <p>新分野拡充のために新校舎建築(平成5年頃)▶</p>	

「情報・環境・モノづくり」分野で大学3学部9学科、大学院2研究科を設置

「情報・環境・モノづくり」の活動領域に対応して、大学は工学部、情報工学部、社会環境学部の3学部9学科、大学院は工学研究科、社会環境学研究所の2研究科を設置しています。

大学(学部・学科)・大学院・3研究所概要 ※収容定員は平成28年度

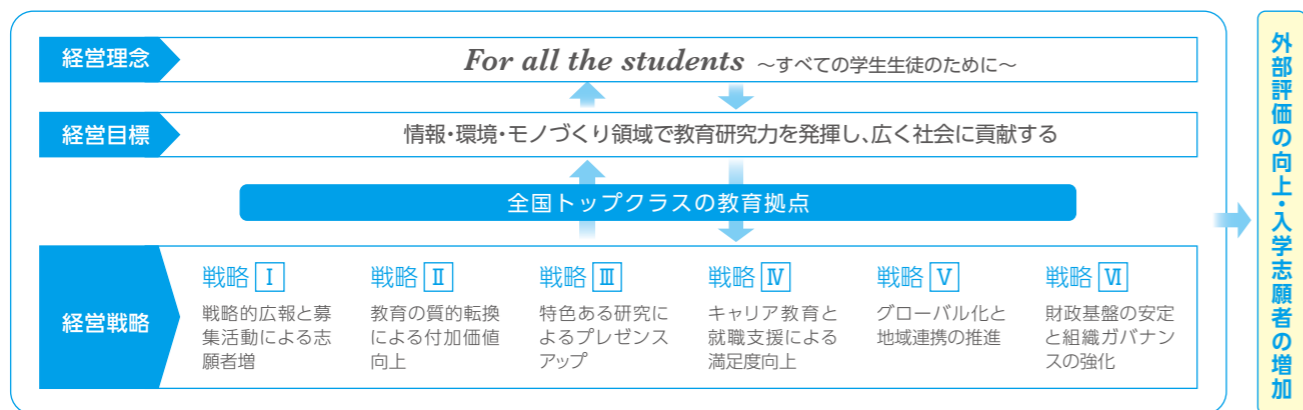


経営理念としてFor all the studentsを掲げ、その具現化のためにマスタープランを策定し「学校改革」を続けています。

経営理念は、全ての教職員の諸活動における根本的考え方です。また、全ての教職員にとって、「学生・生徒のために「Just Do It! (即実行)」が行動の基本です。これらの精神と「公教育を担う学校法人としての使命感」を携えて、教育・研究にあたっています。

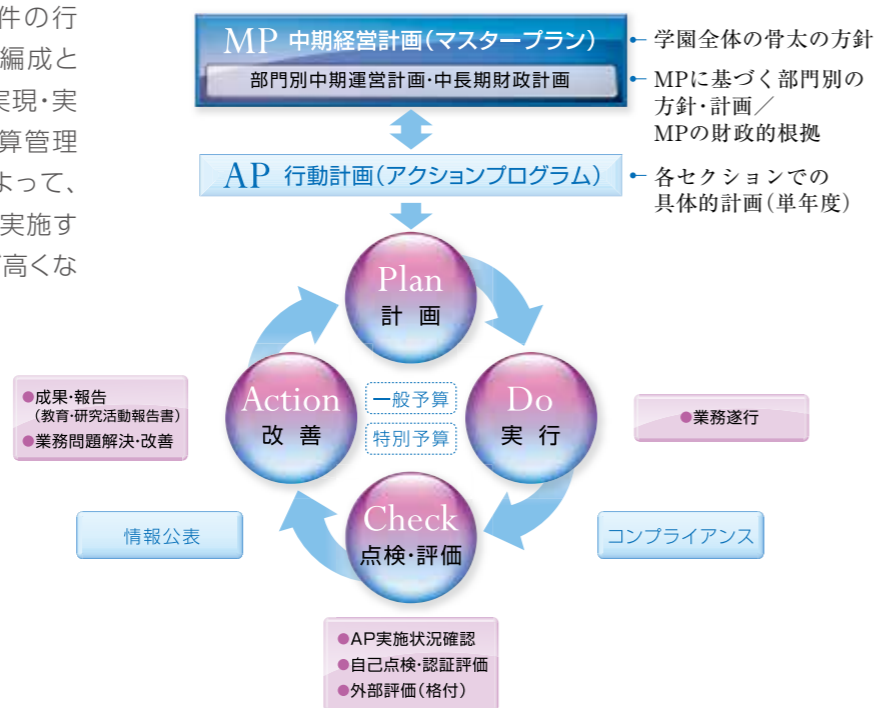
「全国トップクラスの教育拠点」を目指して、第7次マスタープラン(経営計画)を策定

第7次マスタープランでは、「財政基盤の安定」と「学園の質向上」を両立させ、「全国トップクラスの教育拠点」へと飛躍することを目標に掲げました。6つの経営戦略(総合的目標)に沿って、全学をあげて諸改革に取り組んでいきます。



マスタープランに基づき、毎年500件のアクションプログラム(改革・改善計画)に着手

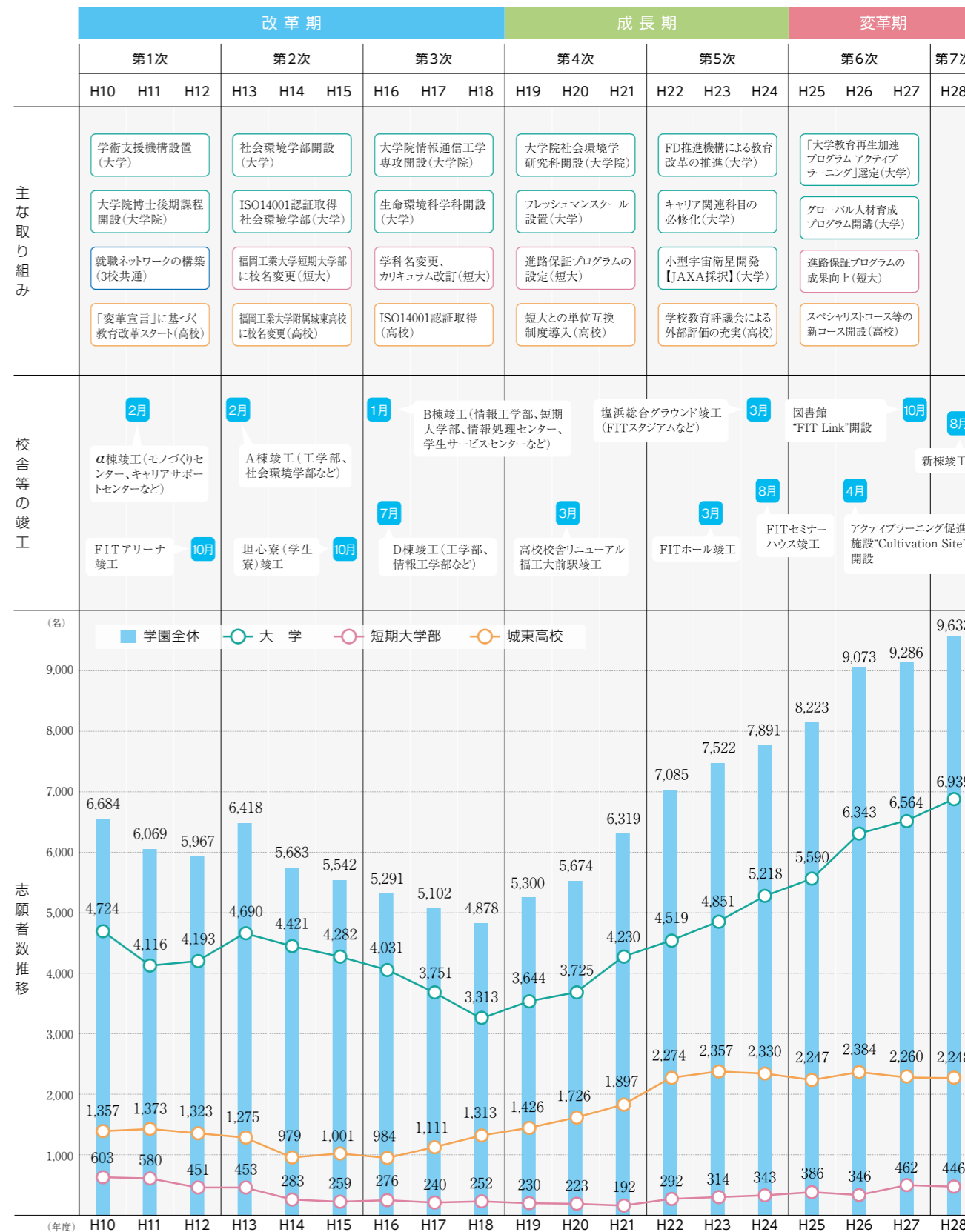
マスタープランを毎年約500件の行動計画に分解・具体化し、予算編成とリンクさせることで、諸計画の実現・実効性を高めています。また、予算管理と関連したPDCAサイクルによって、各部門が自立的な点検・評価を実施することでも、諸計画の実現性が高くなっています。



マスタープランとアクションプログラムの大きな成果として入学志願者が増加

大学は10年連続で入学志願者が増加しました。短大も増加傾向であり、安定して志願者を確保しています。高校は平成16年度以降7年連続で入学志願者が増加し、「県下トップクラス」を維持しています。

■ マスタープランの成果

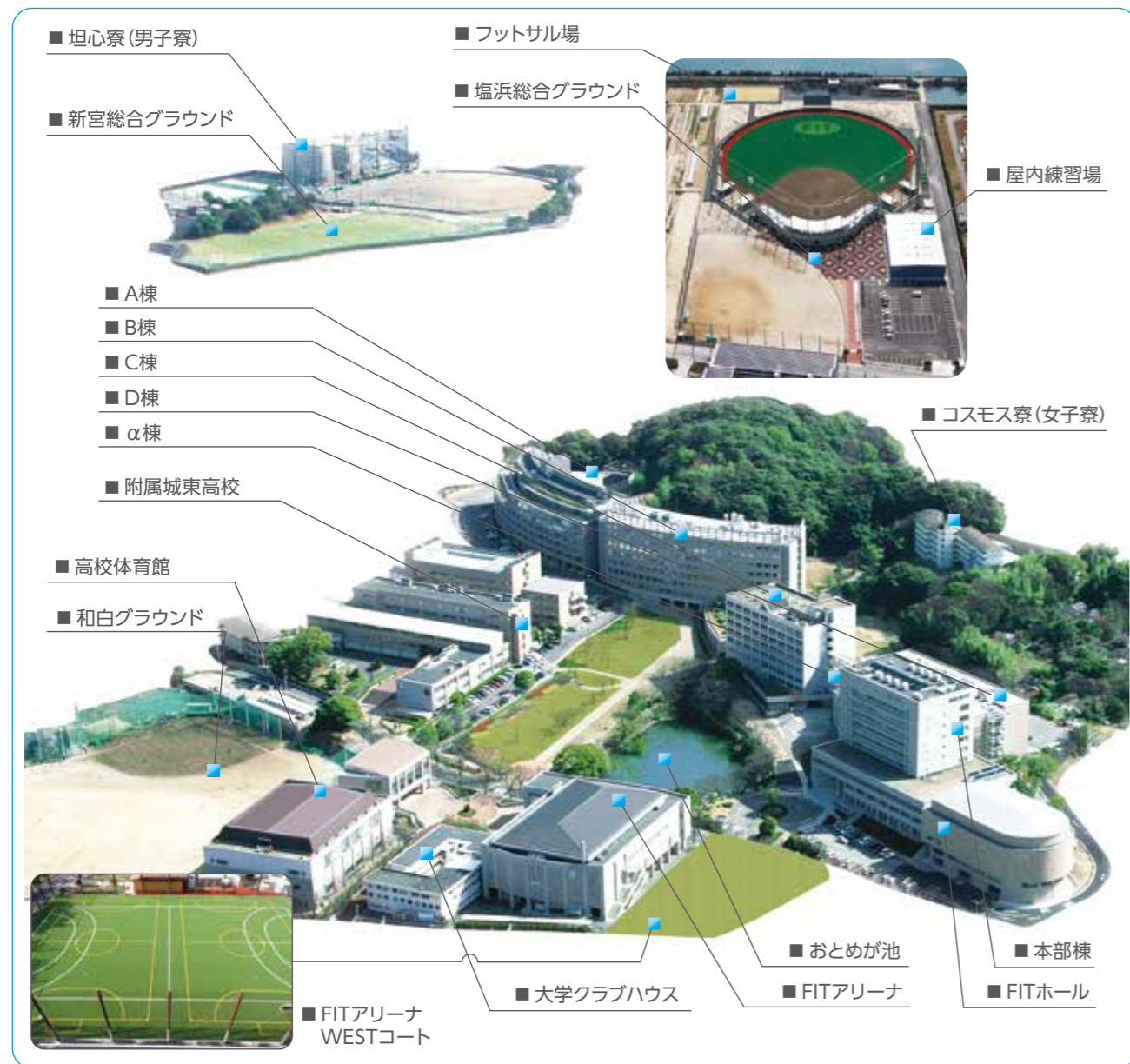


キャンパスの整備は、教育・研究機能の高度化、キャンパスライフの利便・快適性の向上を追求しています。

平成9年から計画・段階的にキャンパスを整備してきました。α棟を起点に、A～D棟の教育4棟、FITアリーナ・ホール・スタジアム・セミナーハウスまで、教育・研究機能の高度化、課外教育活発化、キャンパスライフの快適・利便性の向上を追求しています。

先進技術と自然環境が調和、学術・文化・スポーツを活発化するキャンパスを創造

先進工業技術・ICT技術・自然環境が調和したキャンパスを整備しています。おとめが池を中心に桜やケヤキの並木、芝生広場、常緑樹林帯を配置し、「くつろぎ機能」をふんだんに織り込み、学びの場として良好な環境となっています。



人間教育フィールドとして、コンサートホール、野球スタジアム、セミナーハウスを整備

文化・スポーツ・地域交流の場として、FITアリーナ(コンサート・スポーツ両方に対応)、FITホール、FITスタジアム(野球他多用途に対応)、FITセミナーハウス(合宿研修所(大分県由布市))を設置しています。



「第Ⅲ期施設・設備整備計画」でキャンパス全域の教育・研究機能を高度化

国・社会から求められる大学改革ニーズに積極的に対応するために、キャンパス全域を再構築しています。学生の主体的学修促進を中核にした教育の質的転換、産業界等との連携、地域発展への貢献、並びにグローバル化を促進し「全国トップクラスの教育拠点」を目指します。(平成29年3月完工予定)

(平成27年7月計画策定)

<キャンパス整備の主要な目的>

- 1 アクティブラーニングの拡大
- 2 情報処理・情報編集技術の高度化
- 3 ラーニング commons の学習機能向上
- 4 キャンパスライフの快適性向上
- 5 研究高度化・実用化の加速
- 6 キャリア教育・グローバル化教育の高度化
- 7 地域社会・産業界と連携強化



■ 第三期施設・設備整備計画の進捗状況レポート(ファシリティレポート)

(平成27年10月)



多様な講義・学習スタイルに対応した、アクティブラーニング対応型教室の増設(計画14教室中8教室が完成)



キャンパス全域のラーニング commons 化の整備 (A棟学生ホール整備の状況)



「学生の主体的な学修」を主要な目的として、全学的に新たな教育内容・方法を開発・試行しています。

教育内容・方法の改善・向上に関する企画、開発、実施及び支援を行うためにFD推進機構を設置しています。ここでFD(教授・教育方法開発)に関する取組の立案・実施(アクティブラーニング(AL)展開など)や学部等におけるFDの支援を行いました。

全学をあげて体系的・系統的に教育内容・方法を改善

教育の質向上を進めるための基盤(FD推進委員会や各学部の設置など)を整備し、全学または各学部で「学生の主体的な学修」を促す方策等の議論を活発・入念に行ってきました。学部の特徴を活かしながらアクティブラーニング授業を増加させる等の教育改善活動を継続しています。

	工学部	情報工学部	社会環境学部
全学FD	・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー改訂 ・アクティブラーニング展開 ・授業アンケートの高度活用 ・インターンシップ高度化		
学部別FD	・講義PDCA ・学部と大学院の連携教育 ・FD研修会	・教育改善PDCA ・個別相談コーナー開設 ・他学科科目履修制度創設 ・FD研修会	・先進的教育事例研修 ・FD研修会
入学前教育	・e-Learning方式による数学基礎力強化(推薦入試合格者対象)		テキスト課題による数学基礎力・作文力強化(推薦入試合格者対象)
リメディアル教育	・導入科目による基礎学力の底上げ ・「フレッシュマンスクール」による数学基礎力向上		・「フレッシュマンスクール」による作文力向上
情報教育	情報系基礎科目による情報スキル養成		
英語教育	習熟度別クラス編成による効果的な教育の実施		
創成型教育	課題解決型授業による創造性を磨く授業の展開		
少人数ゼミ	実験科目・ゼミナールなどにおける自主的学修の促進		
表彰制度	成績優秀者、資格取得者の表彰	資格取得者の表彰	



FD研修会の様子



アクティブラーニングの様子



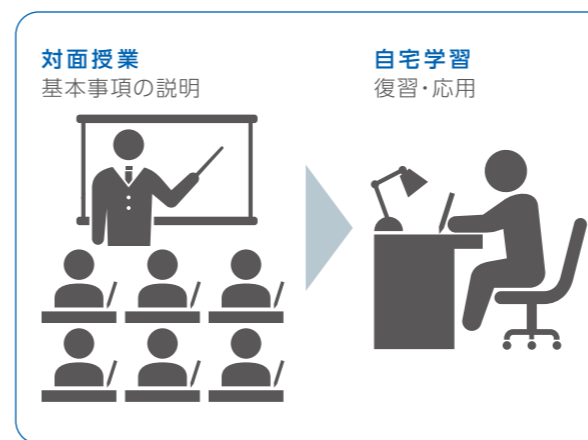
フレッシュマンスクールの様子

文部科学省の選定を受けて、アクティブラーニングの取組は大きく進展

26年度大学教育再生加速プログラム事業に採択され、AL型講義の全学展開を図っています。27年度は、AL対応型講義室の整備・授業アーカイブの導入等の環境整備を行うとともに、ALに関する研究・研修会を開催して共通認識を高め、60.8%の教員(87/143人)が87.0%の学生(3,731/4,287人)にAL型授業を実施しました。

■「授業アーカイブを活用した反転授業」のイメージ

●伝統的な授業



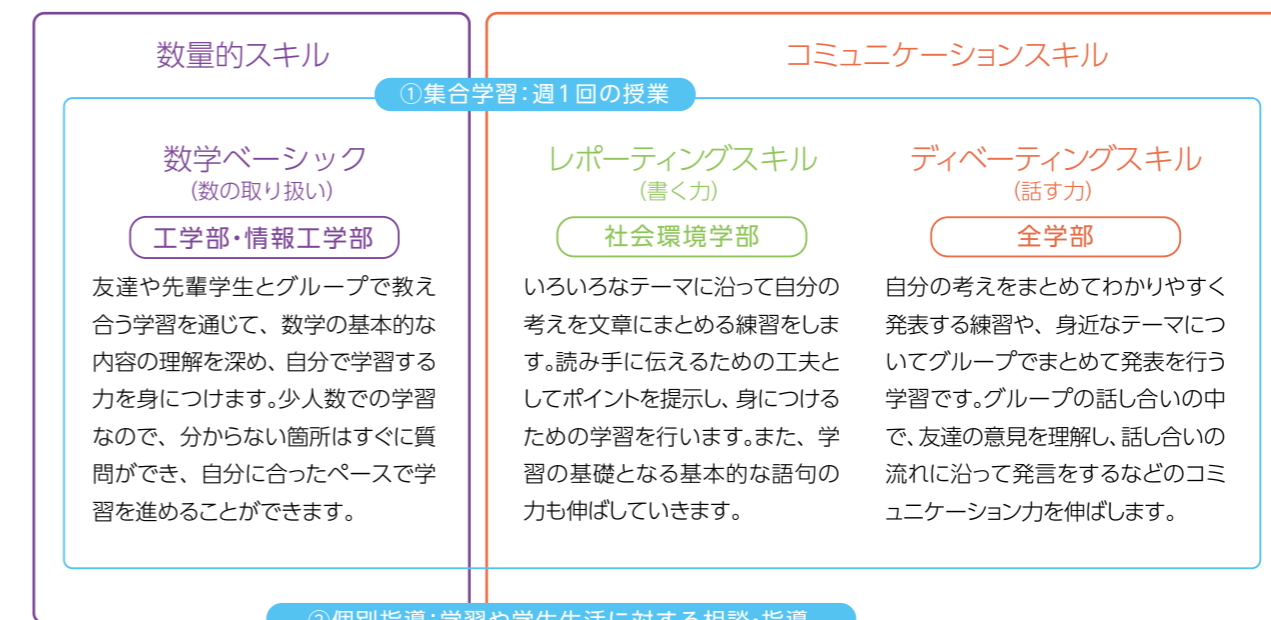
●反転授業



▶「反転授業」では、動画として用意された講義の一部を授業アーカイブシステムで宿題として事前に視聴し、実際の講義ではこの予習で得た知識を応用して問題を解いたり、議論を行ったりして講義内容の理解を深めます。

フレッシュマンスクールで「大学で学ぶための基礎学力」を養成

新入生が学生生活を始める段階での学修サポートとして、基礎学力養成のための「集合学習」と学習相談や悩みに対応する「個別指導」を行っています。多くの対象者が、一年間の課外カリキュラムを受講する中で大学教育を受けるうえで必要な力と、自ら学修する習慣を身に付けています。



▶「数学ベーシック」、「レポートニングスキル」を受講した学生は、受講後は数学・国語基礎学力が向上しています。

高度な研究のための環境・基盤が整っています。研究推進体制、研究予算、研究装置・設備はいっそう充実しました。

総合研究機構のもとで、研究資源(研究組織、研究予算、研究設備等)の充実、研究シーズ、研究成果等の情報公表の積極化、研究ネットワークの構築を図りました。このことが、科学研究費等外部研究支援事業の良好な採択、受託・共同研究事業の大幅な増加につながりました。

文部科学省等外部支援制度を活用し、最先端研究装置・設備を導入

研究事業・内容の高度化に伴い、精緻・精密な先進的研究装置・設備の導入を進めています。導入にあたっては、研究計画・機器導入計画によって、文部科学省等補助事業の申請を行い、相応の評価を受けて難易度の高い支援事業に採択されました。

■DXR顕微レーザーラマン分光装置 (文部科学省・私立学校研究装置等施設整備費採択)



試料にレーザーを照射し、ラマン散乱光から物質の種類や状態を調べる装置。非接触・非破壊で、分子構造解析、結晶性評価、残留応力解析が可能。

■小角X線錯乱装置(文部科学省・私立大学等 戦略的研究基盤形成支援事業採択)



実験室系装置として最高レベルの小角分解能($Q_{min} \sim 0.02 \text{ nm}^{-1}$)を有する小角X線散乱測定装置。ナノスケール(0.1nm~100nm)の構造評価に最適で、固体、液体、液晶、ゲルなどの規則・不規則構造の分析が可能。本装置は、国内で2番目(九州初)の導入。

■近年導入した主な研究機器

動的粘弾性測定装置	電子線マイクロアナライザ(EPMA)
電界放出形走査顕微鏡(FE-SEM)	マーカス型高周波グロー放電発光表面分析装置(GD-OES)
モーションキャプチャー装置(VICON)	マイクロ波共鳴測定装置(ESR)
フーリエ変換赤外分光光度計(FT-IR)	分子線エピタキシャル装置(MBE)
原子間力顕微鏡(AFM)	小型多面立体視システム(CAVE)
デジタルマイクロスコープ	生体信号計測システム

高い研究意欲や研究の質向上に対応した研究予算制度の構築

厳格な審査制度のもとで、有望な研究計画に対して研究費の支援を行っています。若手教員・新任教員スタートアップ、学際連携、大型プロジェクト等の目的で重層的な研究予算制度を設けて研究者の研究意欲に応えています。

■FITテクノクラブの概要

- ・地元企業とのネットワーク強化と産学連携による研究の活性化を目的として設立された会員組織
- ・敷居が高いとされる大学イメージの払拭を図り、地域産業界に親しみやすい大学を志向(主に技術系企業を中心に172社(平成28年2月現在)が加入)

■主な活動内容

- ・メールマガジンやHPによる最新情報の提供
- ・会員企業間の異業種交流を図る『産官学交流会』や本学の研究シーズ発表会の開催(メルマガでの迅速な案内)
- ・コーディネータによる技術相談対応と会員企業訪問によるニーズ調査、及び学内研究シーズとのマッチング

■FITテクノクラブ技術研究会



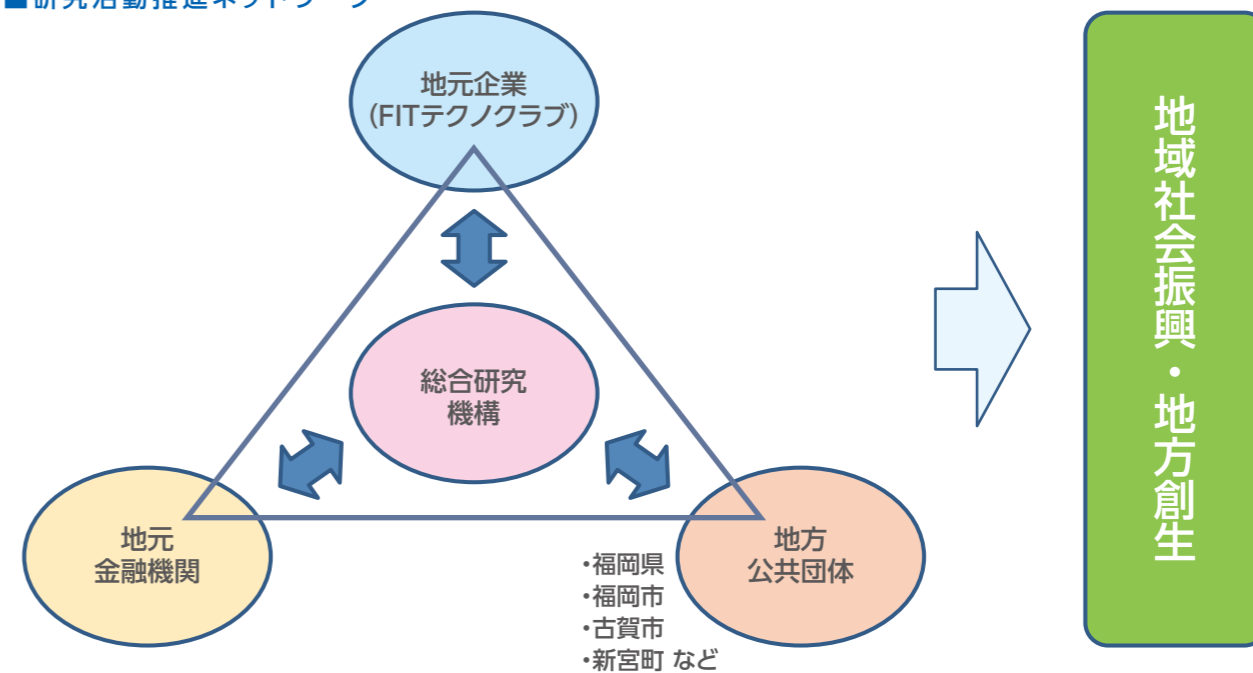
■技術展示・交流会



総合研究機構を設置し、研究支援体制を構築。外部連携を積極化

研究活動を多方面から支援するために、総合研究機構を設置しています。同機構では、研究シーズ・研究成果の公開、地域社会等の研究ニーズ等を把握し、地域企業等との連携を強めつつ研究高度化に努めています。主に九州・山口の地元企業から成るFITテクノクラブをはじめとして、地元地方公共団体、金融機関等とのネットワークを拡大しました。

■研究活動推進ネットワーク



キャリア教育の実践と実質化に取り組み、多彩なキャリア支援策を実施しました。

初年次から就業力育成教育を正課の中に体系化して組み込み、学士課程を通じて就業力を育成しています。さらに、就職支援スタッフの陣容を強化し、豊富な支援内容を整えています。これらをもとに、産業界や他大学と連携・協力して、いっそうキャリア教育・サポートの内容充実に向けています。

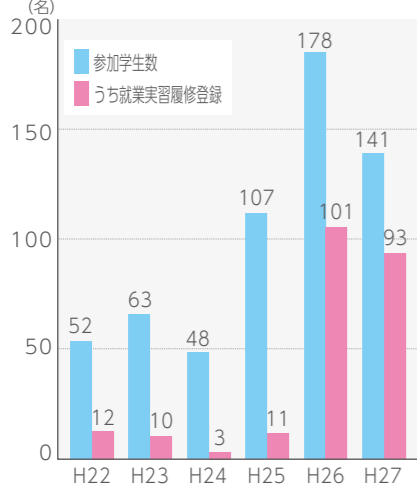
就業力育成プログラムと就活支援プログラムはいっそう成果を拡大

「学生・保護者にとって進路が決定することの重要性」を強く認識し、正規教育課程に「就業力育成プログラム」を組み込み重点化しました。「就活支援プログラム」は、あいさつ教育・個人面談(全員面談)を起点・足掛かりとして、会社面接・履歴書講座、業界研究など15種の就活サポートを行いました。

就業力育成プログラムと就職支援の取組

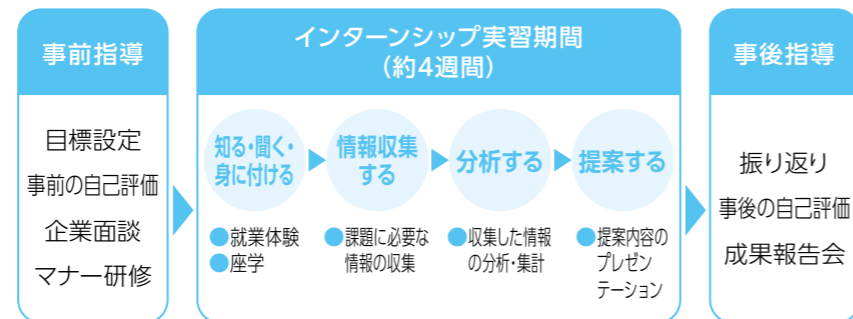
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム	志向する力	キャリア形成						
	共働する力	日本語表現	コミュニケーション基礎					
	解決する力			技術者論理				
	実践する力			就業実習			卒業研究	
就職支援の取組	目的意識	・全員面談 ・学生生活プランニング指導 ・挨拶・マナー指導						
	目標設定				・個人面談 ・学科別ガイダンス			
	就職活動				・個人面接・マナー指導 ・SPI対策講座	・OB企業人ガイダンス ・保護者ガイダンス ・履歴書添削指導 ・模擬面接・集団面接練習会 ・学内合同企業説明会 ・学内単独企業セミナー ・就活交通費支援		

インターンシップ参加者



課題解決型インターンシッププログラム

企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養うことを目的とする。



産業界・他大学と連携・協力して多様なキャリア教育プログラムを開発・実施

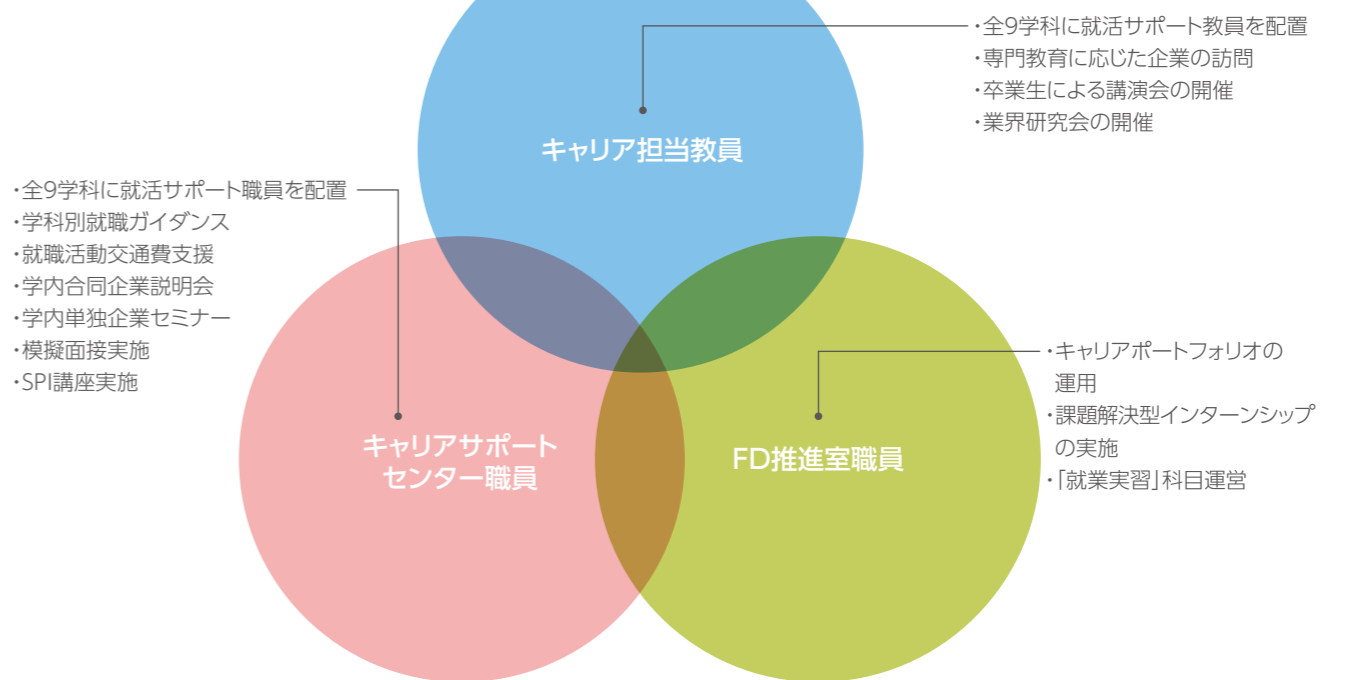
就業力育成や就活支援等のキャリアプランニング支援には、他大学、企業、行政等の外部の評価・意見が有用であるとの考え方で、平成24年以降、外部との連携・協力を行ってきました。いずれの取組も文部科学省の「大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)」に選定され、相応の評価を得ています。

他大学・企業との連携によるプログラムの充実

教員・事務職員が協働するキャリアプランニング支援

キャリアプランニング支援は、キャリアサポートセンター職員(15名)、学部・学科キャリア担当教員(9名)、FD推進室職員(7名)が共同して実施しています。学生一人ひとりに対する丁寧な関わり、学部教育との連携、プログラムの継続的改善に向けて三者が総力を挙げて取り組んでいます。

キャリアプランニング支援の連携



国の学術グローバル化政策に沿って、多彩なプログラムを整え、国際社会を生き抜く人材の育成に努めています。

大学入学から大学院修了まで、学科教育課程の進行に合わせて、多彩な教育プログラムを整えています。一方で、教育プログラムと併行して、英語コミュニケーション能力を高めてグローバル人材として就職するまでのバックアップ体制を整えています。

海外ネットワークを拡大。派遣・招請双方の留学経験者OBネットワークを形成

米国の4大学、豪州の1大学、中国の4大学、韓国の3大学、並びにタイの2大学など6か国15大学と学術交流協定を締結しています。また、留学経験者たちが相互にサポートし、いっそうグローバル人材として活躍できるように、派遣・招致双方の留学経験者OBネットワークを形成しています。

国際交流ネットワーク



- ▶ 米国カリフォルニア州立大学イーストベイ校 (CSUEB)へは、教育研究・大学運営の向上を目的に教職員を研修派遣しています。(FAST & LEADプログラム)
- ▶ FAST (FIT Administration Staff Training)は、中堅職員の職務能力向上を目指すプログラムです。
- ▶ LEAD (Leadership Education Administration and Development)は、若手教員と職員が協働して教育研究・大学運営力向上を目指すプログラムです。

体系的・系統的グローバル化教育プログラムを導入

グローバル化教育を初年次の導入教育からスタートし、入学後早期の段階で実際の国際社会を意識させ、グローバル人材として就職するまで、段階的・系統的な教育プログラムを施しています。正規課程の英語教育(英語I~IV、ブラッシュアップイングリッシュI~IV)に加えて、5種の渡航プログラムを導入・実施しています。

グローバル人材育成プログラム

	1年次		2年次		3年次		4年次		大学院
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	意識づけ		リーダーシップ育成		キャリアビジョンの形成				高度産業人材育成
正課	学内	英語 I	英語 II	英語 III	英語 IV	ブラッシュアップイングリッシュ I	ブラッシュアップイングリッシュ II	ブラッシュアップイングリッシュ III	ブラッシュアップイングリッシュ IV
	学外	夏季カリフォルニア英語研修							
課外			タイ短期研修		ACEプログラム		FINEプログラム		STARプログラム

教育プログラムの進行に合わせてコミュニケーションスキル習得をサポート

学生の留学・語学研修サポートに加えて、教職員の外国でのFD、SDをサポートするために国際戦略室 (Global Student Lounge) を設置しています。ここを拠点として、学生に対しては、初年次から大学院修了まで、ネイティブレッスン、TOEIC講座、プレゼンテーション指導等、コミュニケーションスキルの習得をサポートしています。

グローバル人材育成支援体制・内容

	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院
支援体制	Global Student Lounge				
	ネイティブ職員による課外レッスン				
	TOEICスコアアップ支援				
	国際学会プレゼンテーション指導				
				就職活動英語面接サポート	



Global Student Lounge
留学や語学に興味のある学生や留学生の交流の場としても利用



大学院での国際学会プレゼンテーション指導の様子
海外協定校から招いた講師によるネイティブレッスン等を実施

調べ・考え・まとめ・発表する力を啓発・向上させるために、快適・開放的な学修・創造空間を整え、自発的学修をサポートしています。

調査・分析力、課題設定・解決力、創造力等の社会人基礎力の習得をサポートするために、アクティブラーニングスペースやラーニングcommons整備に取り組みました。モノづくりセンターは創作力を、エクステンションセンターは自己啓発力を主体的・能動的に習得する拠点となっています。

先進的図書館として「FIT Link」、高度ICT研究・実験・教材開発拠点として「クリエイティブラボ」を整備

第Ⅲ期施設・設備整備計画の一環として、図書館と情報処理センターをリニューアルしました。図書館にプレゼンテーションコート、ディスカッションブース等を配置、情報処理センターにクリエイティブラボ、デジタルメディアブース等を整備しました。快適・利便性が大幅に向上し、学生・生徒の利用者数は大幅に増加(前年比約3倍)しました。

■先進的図書館FIT Linkフロア構成



FIT Link 5F
Silent Floor

高度な調査・研究に集中するための「超静穏環境」を整備

FIT Link 4F
Quiet Floor

パーソナルな学習環境として、「静穏」な学習空間を整備



FIT Link 3F
Active Floor

アクティブラーニングの拡大に向けて、透明性・開放性の高い学習空間を整備



■クリエイティブラボでの活動の様子



学生が創作したバーチャルリアリティ(VR)作品



創作したVRを体験している様子



学生が高性能PCを利用して編集した動画の編集画面

▶アクティブラーニング設備、高度ICT設備は文部科学省「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に採択

学生のモノづくり意欲に、全国屈指の創造空間で対応。創作力の習得をサポート

「自ら考え、自らの手で作りたい」、その学生の意欲に対応してモノづくりセンターを設置しています。いつでも使えるオープンスペース、高精度の工作機械・器具・測定器、数百種のパーツ・マテリアルを備え付け、専門技術スタッフを配置しています。

■モノづくりセンターのプロジェクト



二足歩行ロボット



ソーラーカー



ロボット相撲



電気自動車



ビオトープ



ロボットコンテスト



手作りアクセサリ



小型衛星開発

学生の啓発意欲に「FIT資格取得支援講座」で対応。自己啓発力を刺激・サポート

英語力アップに向けたTOEIC講座、就職対策として公務員講座、SPI対策講座、環境・流通系講座、事務能力講座、IT能力向上に向けたMOS講座等を開講しています。1年間の受験者数は1,412名に達しました。

■平成27年度 資格取得試験受験状況

資格・試験名	受験者数(名)
Microsoft office Specialist (MOS)	412
TOEIC	367
日商簿記検定(1級・2級・3級)	174
ITパスポート	120
基本情報技術者試験 (FE)	78
秘書検定(準1級・2級・3級)	72
リテールマーケティング(2級)	67
環境社会検定試験 (eco検定)	34
CG検定	26
WEBクリエイター(上級・初級)	26
バイオ技術者認定試験(上級・中級)	11
CCNA (ICND1、ICND2)	10
医療事務検定	7
応用情報技術者試験 (AP)	5
LPIC	3
合計	1,412

■エクステンションセンターの7つのメリット

- 1 学内ダブルスクールによる、時間・交通費の節約
- 2 合格実績の高い講師招聘による、確実な資格の取得
- 3 生涯学習支援の一環として、受講料は安価
- 4 エントリー資格から難関資格まで、多彩に用意
- 5 団体受験会場として、普段の授業と同じ環境で受験が可能
- 6 受験料の割引が適用可能
- 7 過去3年以内の卒業生は、在学生と同じ受講料で受講が可能

授業・研究活動以外の「キャンパスライフ」も重要な機会として、積極的にサポートしました。

教室・研究室以外も重要な教育・研究フィールド。授業・研究活動以外の課外活動も重要な学習の機会と捉え、クラブ・サークル活動や合宿研修を積極的にサポートしています。また、経済的問題に対する奨学金等の支援や個人の悩み・問題に対する心理カウンセリングを強化しました。

クラブ・サークル活動も重要な学習の機会。学術・文化・スポーツ、多方面に活発

クラブ・サークル活動は、人間性や社会性を育む重要な学びの機会として積極的に支援しています。学術・文化・スポーツの多方面で活発です。今年度は、国際交流同好会(FIT-ICE)、環境サークル(オアシス)、情報技術研究部、吹奏楽部、ビオトープ研究会、硬式野球部、ラグビー部、女子柔道部などが活発な活動を行いました。

■クラブ・サークルの活動状況



国際交流同好会 (FIT-ICE) 主催
カルチャーフェスティバル2015



環境サークル (オアシス)
エコ活動の様子



情報技術研究部
サイバー犯罪抑止の街頭啓発活動



吹奏楽部
第63回全日本吹奏楽コンクール銀賞受賞



ビオトープ研究会
長崎大学とのビオトープ交流会の様子



硬式野球部
第65回九州地区大学体育大会 準優勝



ラグビー部 九州学生リーグ5連覇
全国大学選手権ファーストステージ出場



柔道部 第24回九州学生女子柔道
優勝大会3位入賞・全国大会出場

■スポーツコート、相撲場を新設



フットサル公式基準で2面確保



LED照明でナイトゲームに対応



相撲場 (地域小学生の交流の場としても利用)

▶ 優秀な活動成績については学長表彰を行いました。(詳細はP.49「バックデータ集」参照)

合宿研修も重要な教育機会。セミナーハウスで学生・教職員が集い学ぶ

「学生・生徒・教職員が共に集い、共に学び、実社会で通用性の高い人間性と知性を磨き高める」ことを趣旨として、セミナーハウスを整備しています。開設以来、毎年利用者が増加し、平成27年度の年間利用者数は約2,500名におよんでいます。

■豊かな自然環境のもとで学生等が集える合宿研修施設



〈セミナーハウスの利用者数推移〉(延べ数)

- 平成27年度:学生・生徒1,022名、教職員等1,437名、合計2,459名
- 平成26年度:学生・生徒 934名、教職員等1,039名、合計1,973名

キャンパスライフの悩み・問題に対して親身になってカウンセリング・サポート

学業優秀者や特技優秀者のいっそうの精励、経済的事由によって就学が困難になった学生の経済的支援等、多くの奨学制度を設けています。また、学生の悩み・問題に対して親身になって助言・指導するカウンセリング制度を整えています。

■本学独自奨学支援制度の例

- 1 入試成績の上位者に対し授業料を免除(全額もしくは半額)
- 2 入学後の学業優秀者に対し授業料を半額免除
- 3 スポーツ等の優秀者に対し授業料などを免除
- 4 海外留学費用の全額もしくは一部を免除
- 5 課外活動(クラブ、サークル)の活動費をサポート
- 6 経済的に就学困難な学生に対し授業料を半額免除
- 7 働きながら学ぶ学内ワークスタディ支援制度

■学生生活サポートの体制

専門的 学生支援	臨床心理士等専門的相談の体制
	学生生活相談の体制
	進路に関する相談(キャリアサポート) 健康管理サポート
日常的 修学支援	保護者からの相談サポート
	クラス担任配置によるサポート
	ゼミ等での学習指導 オフィスアワーの設定 学習相談コーナー開設
日常的 学生生活支援	学生相互の学び(ピア・レビュー)
	新入生全員面談の実施
	新入生オリエンテーションの実施 履修・生活相談の随時対応 女子学生・留学生へのサポート 住居・アルバイトの紹介

▶ その他、経済的理由により学費納入が困難な場合、一定の範囲で柔軟に徴収猶予を認めるなど、学生・ご父母に親身に寄り添う相談・支援体制を構築しています。

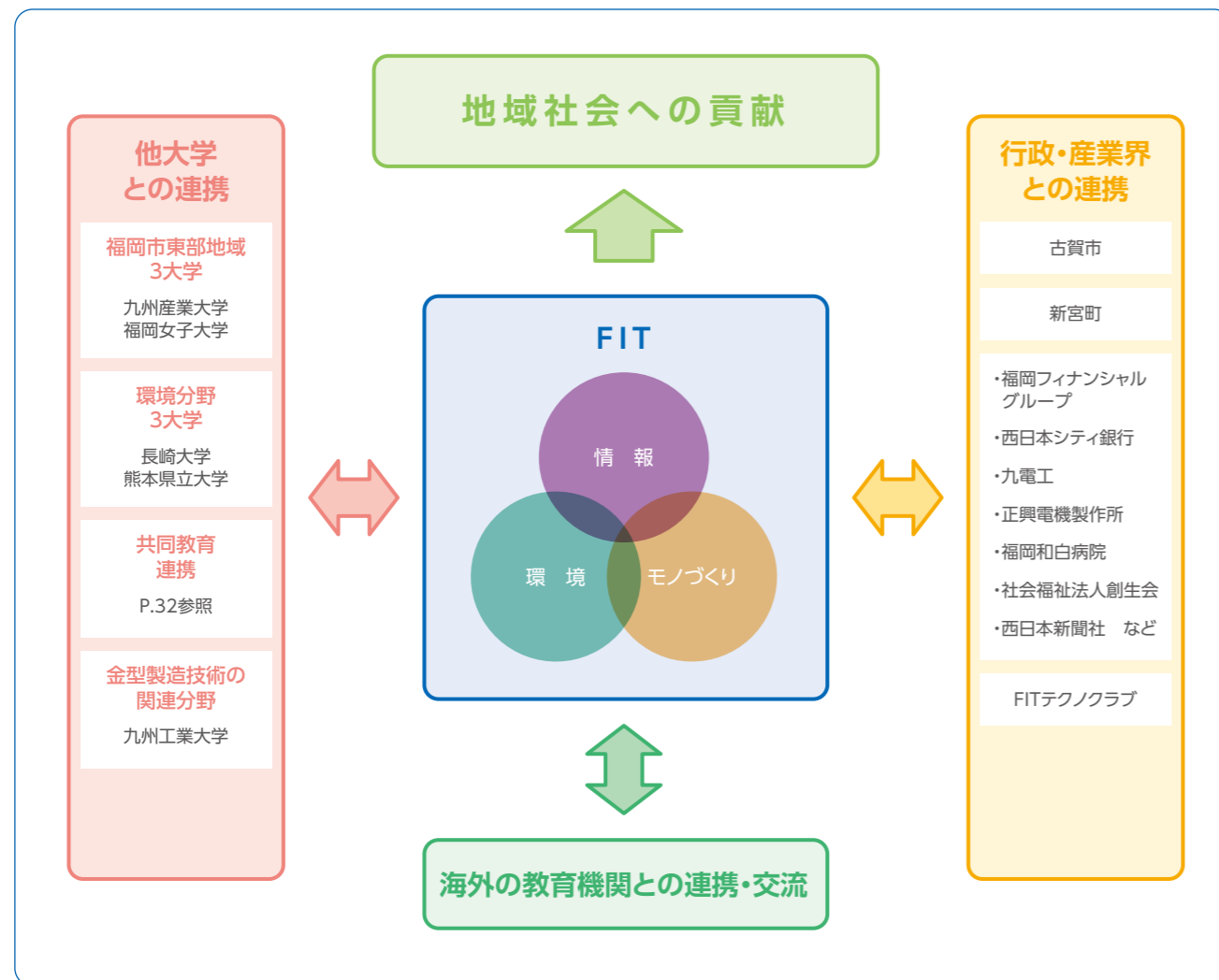
産業界・行政・他大学ネットワークを基盤に教育・研究活動を高度化し、成果の地域社会への還元に努めています。

地域社会への貢献は「大学の使命」との認識のもとに、産業界（企業、金融機関等）、行政、医療福祉機関、並びに他大学等と連携して「情報・環境・モノづくり」分野で教育・研究成果（省電力・蓄電システム、医療ロボット、防災管理システム、環境マネジメントシステムなど）を積極的に地域社会に還元しています。

産業界、行政、他大学等との地域貢献ネットワークを維持・拡大

教育機関が、産業発展、ひいては地域社会の発展に貢献することの重要性から、その役割を確実に果たすため、地元産官学・他大学ネットワークを形成しています。外部の協力を得て研究技術の高度化、高度人材の育成を通じて地域貢献に努めています。

■ FIT 地域貢献ネットワーク



研究成果をFIT地域貢献ネットワークを通じて社会に積極的還元

「情報・環境・モノづくり」分野で、社会的ニーズの高い研究（省電力・蓄電システム、医療ロボット、防災管理システム、環境マネジメントシステムなど）の成果を地域社会に還元しました。企業等へのコンサルティング、地域住民等への講演会・シンポジウム、工業技術研修会の開催等を通じて積極的に行いました。

■ 研究成果の社会還元状況

● 省電力・蓄電システム



環境に優しい農業用水路向けの発電システムを開発

● 医療ロボット



医療現場で活躍する人工筋肉の遠隔操縦ロボットアームを開発

● 防災管理システム



各家庭にスマート雨水タンクを設置、浸水予測のスマートフォン通知システム考案

● 環境マネジメントシステム



環境ビオトープ活動で、生態系維持のための調査を実施

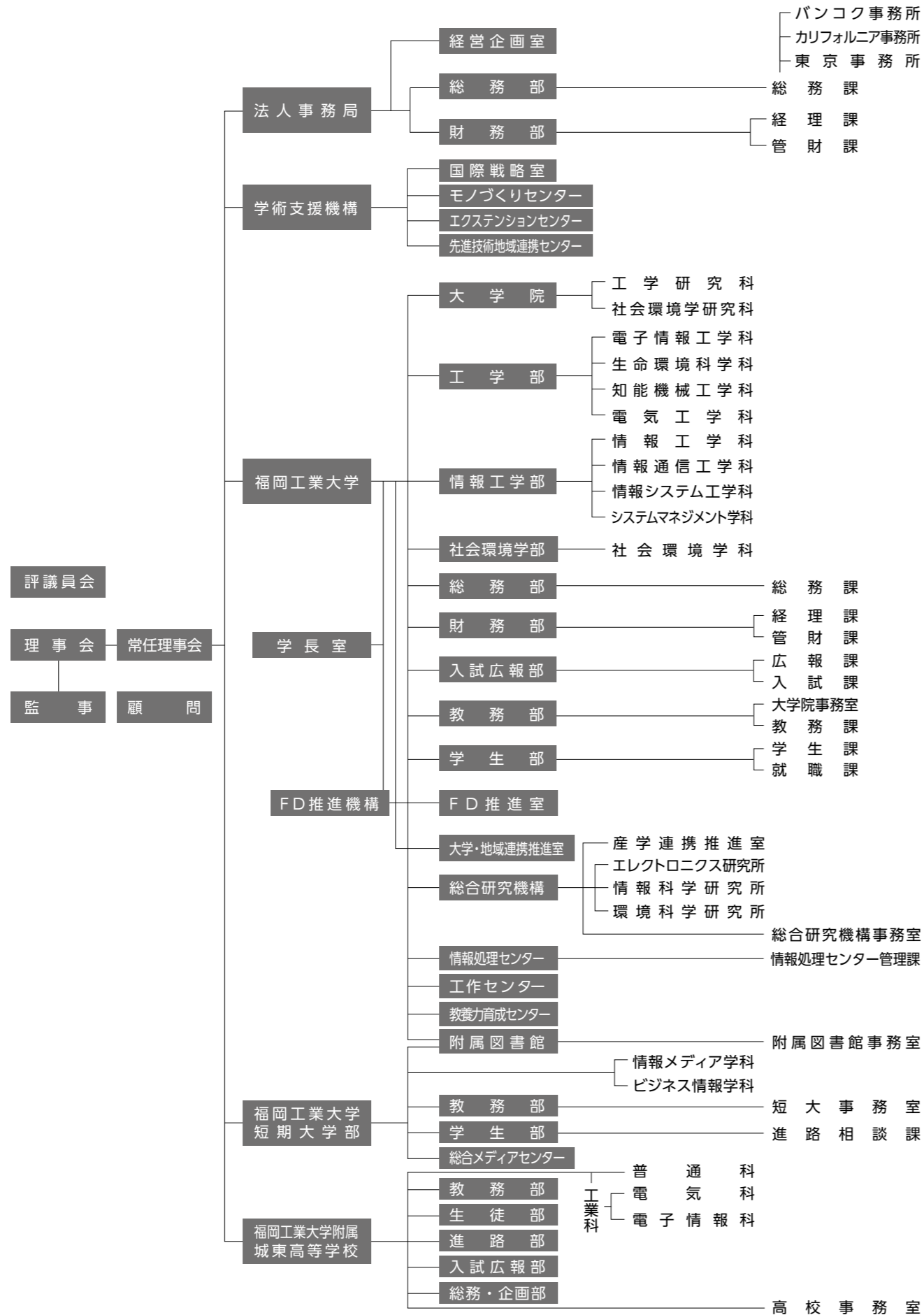
学生も学習成果を携えて、地域社会協働プロジェクト等を通じて社会参画

学生も、講義室・研究室での学びを実社会で応用し確実にすることや、社会への帰属意識・貢献意欲を高めることを目的に社会参画しています。近隣自治体等との協働によるボランティア活動、青少年育成活動、地域美化活動、防犯活動等を積極的に行いました。

■ 地域社会協働プロジェクトの例

<p>① 環境啓蒙・保全活動</p>	<p>② 青少年ものづくり教室</p>	<p>③ 学習支援活動(古賀市・新宮町)</p>
<p>④ 商店会活性化(新宮町)</p>	<p>⑤ サイバーパトロール(悪徳有害ネット監視)</p>	<p>⑥ 生涯学習への貢献</p>

組織図 平成28年4月1日現在



役員等の状況

■役員一覧 (平成28年4月1日現在)

職名	氏名	兼職名
理事(理事長)	鶴木 洋二	
理事(常務理事)	大谷 忠彦	
理事	下村 輝夫	大学、短期大学部学長
理事	園田 義男	附属城東高等学校長
理事	山下 剛	事務局長
理事(非常勤)	江頭 公成	
理事(非常勤)	川原 正孝	
理事(非常勤)	園田 勇	
理事(非常勤)	高田 洋征	
理事(非常勤)	森 紀久雄	
理事(非常勤)	小幡 修	
理事(非常勤)	米田 達郎	
監事(非常勤)	吉戒 孝	
監事(非常勤)	中尾 忠徳	

職名	氏名	兼職名
最高顧問	麻生 渡	

役員区分	定数	実数	選任条項別実数※
理事	9~13	12	1号2名、2号2名、3号8名
監事	2~3	2	
評議員	19~27	26	1号4名、2号3名、3号3名、4号16名

※1号理事：学長・校長、同2号：評議員、同3号：学識経験者
 1号評議員：学長・校長、同2号：卒業生、同3号：父母、同4号：学識経験者

■部科長一覧 (平成28年4月1日現在)

職名	氏名
工学部長	村山 理一
情報工学部長	木室 義彦
社会環境学部長	李文忠
工学研究科長	大山 和宏
社会環境学研究科長	坂井 宏光
教務部長	松尾 敬二
学生部長	上寺 康司
図書館長	阿山 光利
情報処理センター長	若原 俊彦
総合研究機構長	田中 秀司
モノづくりセンター長	阿比留 久徳
入試広報部長	倪 宝栄

職名	氏名
電子情報工学科長	盧 存偉
生命環境科学科長	北山 幹人
知能機械工学科長	木野 仁
電気工学科長	北川 二郎
情報工学科長	前田 道治
情報通信工学科長	渡辺 仰基
情報システム工学科長	徳安 達士
システムマネジメント学科長	藤岡 寛之
社会環境学科長	中川 智治
エレクトロニクス研究所長	数仲 馬恋典
情報科学研究所長	山澤 一誠
環境科学研究所長	森山 聡之
産学連携推進室長	田中 秀司

教職員数

■教員数 (平成28年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部					
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教授	34	0	34	24	1	25	15	1	16	5	0	5	3	0	3
准教授	11	3	14	22	0	22	5	2	7	3	0	3	1	2	3
講師	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助教	7	3	10	6	2	8	3	2	5	1	0	1	0	0	0
合計	52	6	58	55	3	58	23	5	28	9	0	9	4	2	6

■職員数 (平成28年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学			福岡工業大学短期大学部		
男女別	男	女	計	男	女	計
専任職員	58	13	71	2	2	4
嘱託職員	12	37	49	0	5	5
契約・派遣職員	1	26	27	0	0	0
合計	71	76	147	2	7	9

平成27年度学位授与数

■学士・短期大学士授与数

学部等名	授与数
工学部	365
情報工学部	397
社会環境学部	172
短期大学部	162

■博士・修士授与数

研究科名	修士授与数	博士授与数
工学研究科	47	2
社会環境学研究科	5	-

■JABEEコース修了者数

コース名	修了者数
知能機械創成コース (知能機械工学科)	38
情報通信先端工学コース (情報通信工学科)	12
情報システム技術コース (情報システム工学科)	6

学生数

■大学、短期大学部在籍学生数 (各年5月1日現在)

学部	学科	平成27年度						平成28年度		
		定員	現員	定員充足率	留年者数	退学・除籍者数	中退率	定員	現員	定員充足率
工学部	電子情報工学科	330	397	1.20	36	16	0.04	340	411	1.21
	生命環境科学科	330	390	1.18	38	15	0.04	340	386	1.14
	知能機械工学科	410	513	1.25	66	27	0.05	420	489	1.16
	電気工学科	330	402	1.22	50	15	0.04	340	404	1.19
	合計	1,400	1,702	1.22	190	73	0.04	1,440	1,690	1.17
情報工学部	情報工学科	490	614	1.25	32	19	0.03	500	609	1.22
	情報通信工学科	330	445	1.35	35	22	0.05	340	430	1.26
	情報システム工学科	330	430	1.30	26	17	0.04	340	424	1.25
	システムマネジメント学科	245	327	1.33	16	9	0.03	250	312	1.25
	合計	1,395	1,816	1.30	109	67	0.04	1,430	1,775	1.24
社会環境学部	社会環境学科	670	769	1.15	42	38	0.05	680	773	1.14
福岡工業大学合計		3,465	4,287	1.24	341	178	0.04	3,550	4,238	1.19
大学院	工学研究科(修士)	116	105	0.91	5	4	0.04	122	113	0.93
	工学研究科(博士)	12	10	0.83	0	2※	0.20	12	10	0.83
	社会環境学研究科	12	9	0.75	0	0	0.00	12	7	0.58
	合計	140	124	0.89	5	6	0.05	146	130	0.89
福岡工業大学・大学院合計		3,605	4,411	1.22	346	184	0.04	3,696	4,368	1.18
短期大学部	情報メディア学科	210	271	1.29	39	19	0.07	210	262	1.25
	ビジネス情報学科	110	124	1.13	12	6	0.05	110	127	1.15
福岡工業大学短期大学部合計		320	395	1.23	51	25	0.06	320	389	1.22

※単位取得退学者は含まない(1名)

■高等学校在籍生徒数 (各年5月1日現在)

課程	平成27年度			平成28年度		
	定員	現員	定員充足率	定員	現員	定員充足率
普通科	1,050	1,364	1.30	1,050	1,448	1.38
電気科・電子情報科	600	659	1.10	600	611	1.02
福岡工業大学附属城東高等学校合計	1,650	2,023	1.23	1,650	2,059	1.25

■国別留学生数 (平成27年5月1日現在)

	中国	韓国	タイ	ベトナム	ネパール
大学	32	0	5	0	1
短期大学部	1	0	0	0	1
大学院	42	0	8	1	0
研究生	2	0	0	0	0
科目等履修生	6	2	2	0	0
合計	83	2	15	1	2

平成28年度入試状況

■大学

学部	学科	定員	特別推薦※			一般推薦			一般A方式			一般C方式※			留学生			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	90	31	31	30	33	22	16	210	114	40	471	214	12	1	1	1	746	382	99
	生命環境科学科	90	26	20	20	43	21	17	271	127	30	425	204	28	3	2	2	768	374	97
	知能機械工学科	110	43	38	38	58	26	19	347	156	46	506	221	19	2	0	0	956	441	122
	電気工学科	90	31	31	31	35	14	11	247	122	41	426	180	20	1	0	0	740	347	103
	学部合計	380	131	120	119	169	83	63	1,075	519	157	1,828	819	79	7	3	3	3,210	1,544	421
情報工学部	情報工学科	130	52	52	52	75	40	32	362	132	36	644	186	19	2	1	1	1,135	411	140
	情報通信工学科	90	33	32	32	35	24	19	128	77	28	458	188	16	0	0	0	654	321	95
	情報システム工学科	90	30	25	25	32	25	14	211	98	30	494	249	27	1	1	1	768	398	97
	システムマネジメント学科	65	27	27	27	15	10	7	54	37	8	350	253	28	0	0	0	446	327	70
	学部合計	375	142	136	136	157	99	72	755	344	102	1,946	876	90	3	2	2	3,003	1,457	402
社会環境学部	社会環境学科	160	92	88	87	49	37	33	139	91	46	441	261	21	5	1	0	726	478	187
	合計	915	365	344	342	375	219	168	1,969	954	305	4,215	1,956	190	15	6	5	6,939	3,479	1,010

※前期入試、後期入試の合計

■大学(編入学)

学部	学科	定員※	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	-	3	3	3
	生命環境科学科	-	2	0	0
	知能機械工学科	-	0	0	0
	電気工学科	-	3	2	2
	学部合計	-	8	5	5
情報工学部	情報工学科	-	12	10	10
	情報通信工学科	-	8	6	5
	情報システム工学科	-	10	7	7
	システムマネジメント学科	-	4	3	3
	学部合計	-	34	26	25
社会環境学部	社会環境学科	30	36	28	27
	合計	-	78	59	57

※工学部、情報工学部は定員未設定

■大学院

研究科	専攻	定員	一般※1			協定校※2			外国人※3			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学研究科	電子情報工学専攻	8	2	2	1	5	3	3	0	0	0	7	5	4
	生命環境科学専攻	8	12	9	8	4	3	2	0	0	0	16	12	10
	知能機械工学専攻	8	15	15	15	2	2	2	0	0	0	17	17	17
	電気工学専攻	8	5	4	4	4	3	3	0	0	0	9	7	7
	情報工学専攻	10	4	4	4	1	1	1	0	0	0	5	5	5
	情報通信工学専攻	8	7	7	7	0	0	0	0	0	0	7	7	7
	情報システム工学専攻	8	10	9	9	0	0	0	0	0	0	10	9	9
	システムマネジメント専攻	6	2	1	1	3	2	2	3	3	3	8	6	6
	工学研究科合計	64	57	51	49	19	14	13	3	3	3	79	68	65
社会環境学研究科	社会環境学専攻	6	1	1	1	1	1	1	3	1	1	5	3	3
	修士課程合計	70	58	52	50	20	15	14	6	4	4	84	71	68
工学研究科 (博士後期課程)	物質生産システム工学専攻	2	3	3	3	0	0	0	1	1	1	4	4	4
	知能情報システム工学専攻	2	1	1	1	0	0	0	1	1	1	2	2	2
	博士後期課程合計	4	4	4	4	0	0	0	2	2	2	6	6	6

※1 推薦入試、一次・二次入試の合計 ※2 キングモンクット工科大学(タイ)、南京理工大学(中国)、青島科技大学(中国) ※3 一次・二次入試の合計

■短期大学部

学科	定員	特別推薦※1			一般推薦※2			自己推薦対話型			一般※3			一般C方式※4			留学生			合計		
		志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
情報メディア学科	105	47	47	47	23	22	10	12	11	11	126	79	43	82	39	7	0	0	0	290	198	118
ビジネス情報学科	55	27	27	27	12	11	3	13	13	13	42	39	14	60	49	4	2	2	2	156	141	63
	合計	160	74	74	74	35	33	13	25	24	168	118	57	142	88	11	2	2	2	446	339	181

※1 附属校・指定校推薦入試の合計 ※2 A・B入試の合計 ※3 一期A・B、二期入試の合計 ※4 前期・後期入試の合計

平成27年度進路状況 平成28年3月卒業生

■大学

学部名	学科名	卒業者数	就職希望者数	就職内定者数	大学院進学者数	就職率
工学部	電子情報	72	70	70	2	100.0%
	生命環境	86	73	71	8	97.3%
	知能機械	119	103	103	16	100.0%
	電気	88	83	82	4	98.8%
学部合計		365	329	326	30	99.1%
情報工学部	情報	133	121	118	4	97.5%
	情報通信	92	84	84	7	100.0%
	情報システム	93	78	78	9	100.0%
	システムマネジメント	79	72	71	1	98.6%
学部合計		397	355	351	21	98.9%
社会環境学部	社会環境	172	161	159	1	98.8%
大学合計		934	845	836	52	98.9%

■大学院修士課程

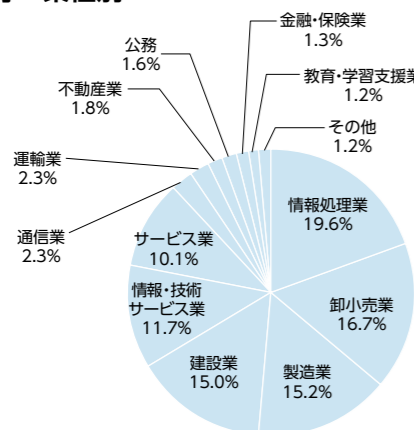
専攻名	修了者数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職率
電子情報	7	6	6	0	100.0%
生命環境	16	16	16	0	100.0%
知能機械	8	6	6	0	100.0%
電気	4	2	2	2	100.0%
情報	5	4	4	1	100.0%
情報通信	5	4	4	1	100.0%
管理	2	2	2	0	100.0%
社会環境	5	2	2	1	100.0%
大学院合計	52	42	42	5	100.0%

■短期大学部

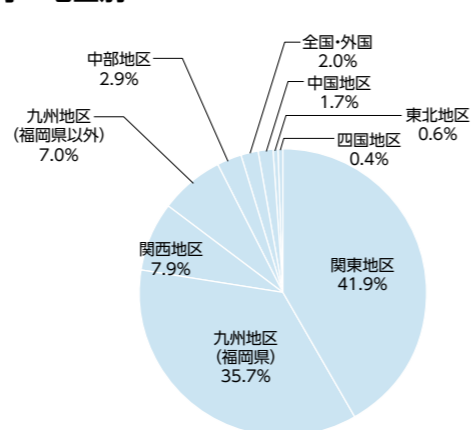
専攻名	卒業者数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職率
情報メディア	109	35	34	63	97.1%
ビジネス情報	53	33	33	15	100.0%
短大合計	162	68	67	78	98.5%

主要就職先 平成28年3月卒業生

■大学・業種別

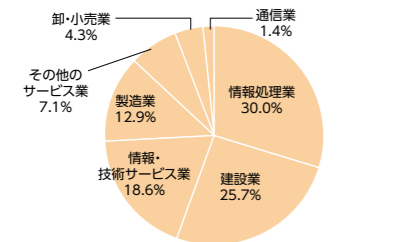


■大学・地区別



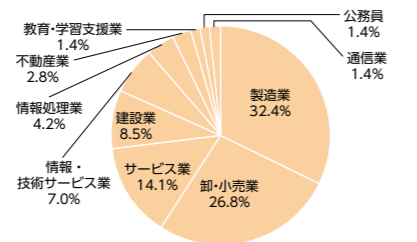
電子情報工学科

(株)協和エレクトロニクス(株)関電工/日本電設工業(株)/日本コムシス(株)/(株)きんでん/住友電設(株)/(株)サン電工社/(株)菱熱/藤工業(株)/(株)石村萬盛堂/(株)東芝/日本無線(株)/豊前東芝エレクトロニクス(株)/メルコパワーデバイス(株)/長崎キャノン(株)/大分キャノン(株)/岡野バルブ製造(株)/サイバコム(株)/NECネットワークシステム(株)/エヌ・ティ・ティ・システム開発(株)/九電ビジネスソリューションズ(株)/(株)九州デン/ソフトバンクコム&サービス(株)/(株)レッドパロン/ネットヨコ日本(株)/(株)日立ビルシステム/エス・イー・シーエレベーター(株)/キューートシステム(株)/トーテックアメニティ(株) など



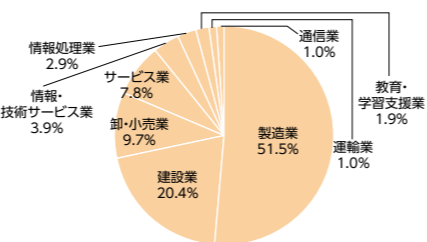
生命環境科学科

山九プラントテクノ(株)/西部電気工業(株)/(株)九電工/(株)高田工業所/イオンフードサプライ(株)/(株)日本サンガリアペパレッジカンパニー/(株)ドック/大陽製粉(株)/(株)フランシア/(株)東洋環境分析センター/ニチバンメディカル(株)/(株)セイシン企業/豊前東芝エレクトロニクス(株)/クアーズテック(株)/(株)ナカタ・マックコーポレーション/ソニーセミコンダクタ(株)/丸東産業(株)/(一社)化学及血清療法研究所/(株)スマリオン/(株)イーサポート福岡本店/(株)九州フジパン/ロイヤルホールディングス(株)/(株)コスモ薬品/西部日本エンタープライズ(株)/オーリックホールディングス/(株)日立ビルシステム/熊本県民テレビ/日研ターナルソーシング(株)/福岡県立小倉工業高等学校/法政大学福岡分校 など



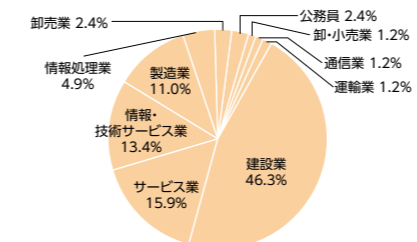
知能機械工学科

三菱電機プラントエンジニアリング(株)/東芝プラントシステム(株)/(株)きんでん/(株)九電工/西部電気工業(株)/(株)神戸製鋼所高砂製作所/(株)山本製作所/(株)古賀自動車製作所/協立エアテック(株)/安川エンジニアリング(株)/(株)東洋空機製作所/(株)京製メック/安川コントロール(株)/日田キャノンマテリアル(株)/マリンハイドロテック(株)/小竹化成(株)/長崎キャノン(株)/九州セキスイハイム工業(株)/富士テクニカルリサーチ/(株)九州デン/九州旅客鉄道(株)/(株)筑豊製作所/(株)九州マツダ/(株)ホンダカース博多/長崎自動車(株)/ペラソコローション(株)/三菱電機ビルテクノサービス(株)/(株)日立ビルシステム/福岡県立小倉工業高等学校/学校法人福岡工業大学附属東高等学校 など



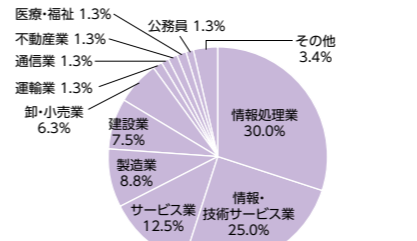
電気工学科

三菱電機プラントエンジニアリング(株)/日立プラントサービス/ダイキンエアテック(株)/(株)きんでん/住友電設(株)/(株)中電工/(株)九電工/西部電気工業(株)/西部電気工業(株)/(株)秀電社/九州電気システム(株)/協和機電工業(株)/文化シャッター(株)/(株)山本製作所/(株)正興電機製作所/(株)トヨタプロダクションエンジニアリング/富士通(株)/三和シャッター工業(株)/NECフィールディング(株)/パナソニックデバイスシステムテック(株)/九電ビジネスソリューションズ(株)/(株)日本テレメックス/九州旅客鉄道(株)/三菱ビルテクノ/サービス(株)/エス・イー・シーエレベーター(株)/(株)日立ビルシステム/日鉄住環境プラントソリューションズ(株)/サンビット(株)/大阪市役所/宗像地区消防本部 など



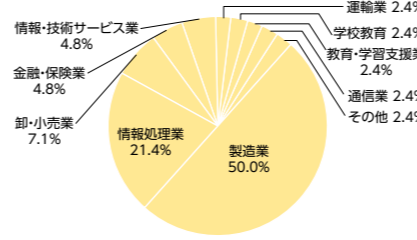
情報システム工学科

日本電設工業(株)/千代田計装(株)/(株)オリエンタル・ホーム/(株)くんけい農園/(株)マイナビ/(株)ゼリン/テック(株)/(株)寺岡精工/サミー(株)/富士ソフト(株)/富士通山口情報/コムックビジネス(株)/(株)テクノスクエア/リンクソフトウェア(株)/九州旅客鉄道(株)/(株)キュー・ハウ/アプライド(株)/日米電子(株)/九州三菱電機販売(株)/(株)サンドラッグ/(株)アンサー倶楽部/福北興業(株)/総合警備保障(株)/(株)アルプス技研/(株)ティーンネットジャパン/(株)ワールドインテックテック/S事業部/医療法人社団 博文会/宗像農業協同組合/北九州農業協同組合/福岡県警察 など



大学院

ニチバンメディカル(株)/ヤマハモーターエンジニアリング(株)/宇宙技術開発(株)/ミズテック(株)/三菱電機インフォメーションシステム(株)/三和シャッター工業(株)/山下医科器械(株)/東芝キャリア(株)/日新電工(株)/日鉄住金銅板(株)/日本システムウェア(株)/(株)富士通エフエス/SCS九州(株)/Gcomホールディングス(株)/JFEシステム(株)/イカリ消費(株)/(株)ケーピー/(株)セイシン企業/テールマーク(株)/河西工業(株)/三光(株)/三洋工業(株)/大阪製鐵(株)/(株)東洋環境分析センター/二瀬産業(株)/日本情報通信(株)/(株)エクス/(株)ダイショー/(株)ドン・キホーテ/(株)リクルートスタッフィング/佐賀県立鳥栖高等学校 など



主要進学先 平成28年3月卒業生

■大学院

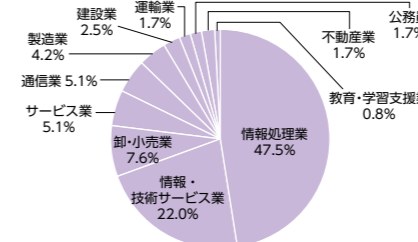
- 福岡工業大学大学院博士後期課程
- 九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻博士後期課程
- 長崎大学大学院経済学研究科博士後期課程

■大学

- 福岡工業大学大学院修士課程
- 東京工業大学大学院電気電子系修士課程
- 東京都市大学大学院工学研究科機械工学専攻
- 九州大学大学院地球社会統合学府

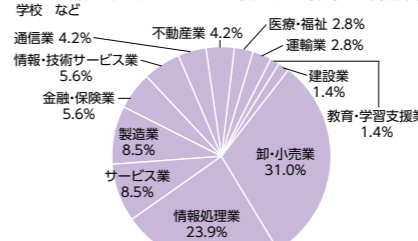
情報工学科

(株)ホームラボ/大陽製粉(株)/(株)九州コーユー/東芝ロントローシステム(株)/(株)サン電工社/(株)秀電社/NECフィールディングシステムテック/ロジック(株)/NECネットワークシステム(株)/富士ソフト(株)/(株)NEC情報システムズ/富士通ネットワークソリューションズ(株)/九電ビジネスソリューションズ(株)/九州ビジネス(株)/九州エクス/九州DTS/(株)NTTフィールドテック/九州通信ネットワーク(株)/東京地下鉄(株)/アプライド(株)/柳井電機工業(株)/JR九州ドラッグイレブ(株)/アイワデザイナーズ(株)コスモ薬品/ワイズカード(株)/(株)さなる九州/(株)日立ビルシステム/(株)エム・アール・エフ/(株)ショージ/(株)第一システムエンジニアリング/自衛隊/刑務官 など



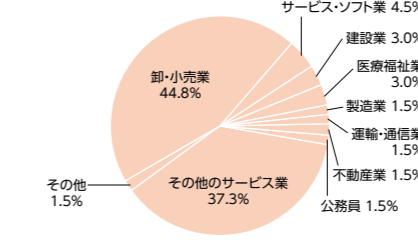
システムマネジメント学科

近鉄エンジニアリング(株)/富士通エフエスシステムズ(株)/日本郵政(株)/西濃運輸(株)/本々システムアンドサポート(株)/三菱電機住環境システムズ(株)/JR九州商事(株)/ヤマエ久野(株)/九州日野自動車(株)/アプライド(株)/西部機材(株)/(株)コム/株)あきんどスシロー/(株)イワタダイナミクス/コムコム薬品/日産プリンス福岡販売(株)/(株)ミスターマックス/福岡トヨタ自動車(株)/(株)三好不動産/(株)えん/(株)玉屋/(株)読売西武アイエス/(株)アルプス技研/日本生命保険相互会社/住友生命保険相互会社/(株)福岡銀行/(株)南日本銀行/医療法人社団 青藍会/社会福祉法人財団 池友会/福岡和白総合クリニック/学校法人 専修学園 慶成高等学校 など



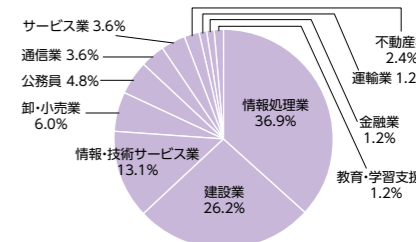
短期大学部

朝日スチール工業(株)/九州特機(株)/デュプロ(株)/コスモ電材(株)/(株)コスモ薬品/(株)ベスト電器/(株)ヨドバシカメラ/(株)ビックカメラ/(株)武田メカネ/(株)若田屋三越/(株)ゲオホールディングス/(株)かかし屋/ダイレックス(株)/(株)ジェイアイエヌ/(株)プロンコビリー/西日本コンピュータ(株)/(株)セレッツ/大和リビング(株)/(株)東横イン/ハウステンボス(株)/(株)全日警/ALSOK福岡(株)/テレコムサービス(株)/(株)マール/久留米運送(株)/北九州日産モーター(株)/九州三菱自動車販売(株)/医療法人福西会グループ/航空自衛隊 など



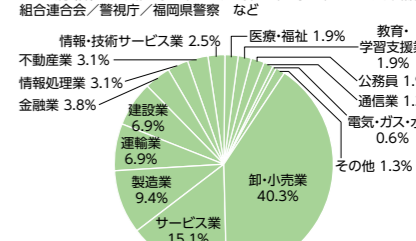
情報通信工学科

ダイキンエアテック(株)/日本エレクトロニクスシステムズ(株)/西部電気工業(株)/(株)サン電工社/(株)秀電社/NECフィールディングシステムテック/ロジック(株)/NECネットワークシステム(株)/富士ソフト(株)/(株)NEC情報システムズ/富士通ネットワークソリューションズ(株)/九電ビジネスソリューションズ(株)/九州ビジネス(株)/九州エクス/九州DTS/(株)NTTフィールドテック/九州通信ネットワーク(株)/東京地下鉄(株)/アプライド(株)/柳井電機工業(株)/JR九州ドラッグイレブ(株)/アイワデザイナーズ(株)コスモ薬品/ワイズカード(株)/(株)さなる九州/(株)日立ビルシステム/(株)エム・アール・エフ/(株)ショージ/(株)第一システムエンジニアリング/自衛隊/刑務官 など



社会環境学科

(株)九電工/吉原建設(株)/(株)日立ビルシステム/鳥栖キュービーク(株)/新日鐵住金(株)八幡製鐵所/本田技研工業(株)/非破壊検査(株)/(株)タカキ/西部ガスエネルギー(株)/(株)イデックビジネスサービス/日本通運(株)/九州日野物流サービス(株)/プリシストンタイヤジャパン(株)/(株)ヨドバシカメラ/(株)セブン-イレブンジャパン/(株)若田屋三越/ハウステンボス(株)/九州日野自動車(株)/福岡日産自動車(株)/九州三菱自動車販売(株)/福岡トヨタ自動車(株)/福岡日産自動車(株)/(株)ホンダカース北九州/佐賀ダイハツ販売(株)/鹿児島トヨタ(株)/(株)福岡銀行/西日本シティ銀行(株)/福岡信用金庫/鹿児島相互信用金庫/全国農業協同組合連合会/警視庁/福岡県警察 など



卒業・修了生累計、同窓会員数

■卒業・修了生累計

50,806名 (平成28年3月31日現在)

学部 38,137名
大学院 1,316名
短大部 11,353名

■地域別同窓会会員数 (平成28年2月29日現在)

地域名	会員数	地域名	会員数
北海道・東北	9	中国	3,121
関東	785	四国	1,200
東海	296	九州・沖縄	21,065
関西・北陸	720	合計	27,196

平成28年度学費・徴収金

■大学院

(単位:円)

研究科	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学災保険料※	合計
工学研究科 (修士課程)	1年次	150,000	520,000	170,000	62,000	20,000	-	1,750	923,750
	2年次以降	-	520,000	170,000	62,000	20,000	-	-	772,000
工学研究科 (博士後期課程)	1年次	150,000	520,000	170,000	62,000	20,000	-	2,600	924,600
	2年次以降	-	520,000	170,000	62,000	20,000	-	-	772,000
社会環境学研究科 (修士課程)	1年次	150,000	460,000	120,000	-	20,000	-	1,750	751,750
	2年次以降	-	460,000	120,000	-	20,000	-	-	600,000

※秋季入学生の学生教育研究災害傷害保険料：修士課程2,600円、博士後期課程3,300円

部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■大学

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
工学部・情報工学部	1年次	200,000	830,000	270,000	88,000	10,000	19,000	61,300	1,478,300
	2年次以降	-	830,000	270,000	88,000	10,000	19,000	-	1,217,000
社会環境学部	1年次	200,000	670,000	170,000	-	10,000	19,000	61,300	1,130,300
	2年次以降	-	670,000	170,000	-	10,000	19,000	-	869,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費28,000円、後援会費20,000円、学生教育研究災害傷害保険料3,300円、アルバム代10,000円

部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■短期大学部

(単位:円)

学科	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
情報メディア学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000
ビジネス情報学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費10,000円、後援会費6,000円、学生教育研究災害傷害保険料1,750円、アルバム代10,000円

部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■高校

(単位:円)

課程	学年	入学申込金	施設設備費	授業料	施設維持費	実習費	図書費	教育充実費	諸会費・積立金※	合計
普通科	1年次	40,000	190,000	300,000	78,000	-	4,000	48,000	114,000	774,000
	2年次以降	-	-	300,000	78,000	-	4,000	48,000	114,000	544,000
電気科・電子情報科	1年次	40,000	190,000	300,000	78,000	12,000	4,000	48,000	114,000	786,000
	2年次以降	-	-	300,000	78,000	12,000	4,000	48,000	114,000	556,000

※諸会費・積立金の内訳:生徒会費12,000円、同窓会費1,200円、PTA会費16,800円、積立金84,000円

積立金は、1年次4月～2年次11月は修学旅行積立金として、2年次12月～2年次3月は卒業積立金として徴収。3年次は徴収しない。
その他の費用 PTA入会費:10,000円(入学年度のみ)、学年予納金:普通科44,400円、電気科・電子情報科47,000円(各年度)

部分は12か月分納 教科書代が別途必要

課外活動

■平成27年度クラブ・サークル加入者数

クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数
硬式野球部	111	バレーボール部	20	音楽研究部	57
女子柔道部	4	陸上競技部	3	音響部	38
ラグビー部	66	アクションサッカー愛好会	54	環境サークルオアシス部	45
アーチェリー部	24	硬式テニス同好会	31	写真部	60
合気道部	14	サイクリング同好会	21	情報技術研究部	71
アイスホッケー部	19	サッカー同好会(フランケンFC)	43	フォークソング研究部	70
弓道部	28	サバイバルスポーツ同好会	52	モダンアート部	59
剣道部	9	男子柔道愛好会	6	ロック部	44
硬式テニス部	13	相撲愛好会	11	アカペラ同好会	28
サッカー部	22	ダンス同好会	33	サブカルチャー同好会	32
自動車工学研究部	9	トライアスロン同好会	11	天体愛好会	33
準硬式野球部	43	硬式野球同好会	36	国際交流サークル(FIT-ICE)同好会	243
水泳競技部	21	バスケットボール愛好会(PRESS)	92	保健愛好会	10
ソフトテニス部	25	パワーリフティング同好会	6	料理・スイーツ研究愛好会	22
ソフトボール部	26	ハンドボール同好会	40	ボランティアサークル Marching	37
卓球部	18	フットサル同好会	28	茶道同好会	12
ダーツ&ビリヤード部	66	フットサル愛好会(ファンタジア)	29	競技麻雀同好会	41
テコンドー部	36	楯球愛好会	36		
バスケットボール部	20	吹奏楽団	61		
バドミントン部	45	オールラウンドミュージック部	54		

加入者総計2,188名

平成27年度資格取得実績

■教員免許取得者数

免許種類	科目	取得者数
高校専修	数学	2

免許種類	科目	取得者数
高校一種	数学	20
	理科	11
	工業	5
	情報	8
	公民	3

免許種類	科目	取得者数
中学校一種	数学	16
	理科	9
	社会	1

■資格取得実績・大学

資格名称	合格者数
第一級陸上無線技術士	6
第一級陸上特殊無線技術士	10
第一級陸上無線技術士(科目合格)	9
第三種電気主任技術者	9
バイオ技術者認定試験(上級)	5
バイオ技術者認定試験(中級)	4
公害防止管理者(水質3種)	1
公害防止管理者(科目合格)	5
機械保全 機械系保全作業2級	3
機械保全 機械系保全作業3級	12
機械加工(普通旋盤作業)3級	1
危険物取扱者免状(甲種)	4
危険物取扱者免状(乙種)	6
CAD 利用技術者試験2級	2
CCNA(ICND1)	5
CCNA(ICND2)	2
CCENT	4
基本情報技術者(FE)	16
応用情報技術者(AP)	2
CG 検定(エンジニア ベーシック)	5

資格名称	合格者数
CG 検定(マルチメディア ベーシック)	6
CG 検定(クリエイター ベーシック)	4
CG 検定(Webデザイナー ベーシック)	2
CG エンジニア検定(エキスパート)	1
ITパスポート	79
Webクリエイター エキスパート	8
Webクリエイター上級	14
Webクリエイター初級	16
eco 検定(環境社会検定試験)	20
リテールマーケティング2級	14
MOS 検定	406
色彩検定1級	2
色彩検定2級	1
医療事務検定	5
日商簿記検定2級	6
日商簿記検定3級	30
秘書検定準1級	2
秘書検定2級	22
秘書検定3級	23

■資格取得実績・短期大学部

資格名称	合格者数
ITパスポート	6
日商PC検定 文書作成2級	1
日商PC検定 文書作成3級	3
日商PC検定 文書作成Basic	7
日商PC検定 データ活用Basic	5
CG エンジニア・ベーシック	9
CG クリエイター・エキスパート	4
マルチメディア・エキスパート	1
マルチメディア・ベーシック	13
Webデザイナー・ベーシック	2
建築CAD検定3級	9
日商簿記3級	9
全経簿記能力検定3級	23
全経簿記能力検定4級	22
秘書検定準1級	2
秘書検定2級	14
秘書検定3級	8
漢字検定準2級	4
日本語検定準2級	1
MOS	4
整理収納アドバイザー2級	1

学生表彰

■大学院

西日本ナノシート研究会 優秀ポスター
日本化学会低次元系光機能材料研究会 優秀講演賞
山本 伸也(工学研究科 博士後期課程 物質生産システム工学専攻)
HWISE-2015 Best Paper Award
BWCCA-2014 Best Paper Award
ITCS-13 Best Paper Award
小田 哲也(工学研究科 博士後期課程 知能情報システム工学専攻)
一般社団法人財源・素材学会 Presentation Award, Kyushu MMIJ(学生優秀発表賞)
永田 翔太(工学研究科 修士課程 生命環境科学専攻)
平成27年度物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会学会 九州地区講演会 優秀口頭発表賞
丸目 哲也(工学研究科 修士課程 生命環境科学専攻)
一般社団法人表面技術協会 平成27年度表面技術協会九州支部優秀学生賞
宮原 文椰(工学研究科 修士課程 生命環境科学専攻)
電気学会 九州支部長賞
窪田 涼介(工学研究科 修士課程 電気工学専攻)
日本産業技術教育学会 奨励賞
原 未希子(工学研究科 修士課程 管理工学専攻)
2015年IEEE福岡支部 学生研究奨励賞
IEICE九州支部 学術奨励賞
三重野 雄太(工学研究科 修士課程 管理工学専攻)

■大学

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
林 裕也(工学部 電子情報工学科)
日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞
後藤 葵(工学部 生命環境科学科)
日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞
黒木 舞香(工学部 生命環境科学科)
資源・素材学会 九州支部
Outstanding Student Award, Kyushu MMIJ
三橋 向輝(工学部 生命環境科学科)
2015年度物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学九州地区講演会 優秀ポスター賞
遠藤 咲良(工学部 生命環境科学科)
日本機械学会 畠山賞
母里 壮太(工学部 知能機械工学科)
電気学会 九州支部長賞
後藤 典宏(工学部 電気工学科)
電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
吉田 陽人(情報工学部 情報工学科)
電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
野島 初姫(情報工学部 情報通信工学科)
電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
高木 翔平(情報工学部 情報システム工学科)
電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
田中 那奈(情報工学部 システムマネジメント学科)
日本経営工学会 優秀学生賞
藤井 秀幸(情報工学部 システムマネジメント学科)

■短期大学部

電気学会 九州支部長賞
吉井 蒼揮(情報メディア学科)

■卒業時成績優秀者

村石 博(電子情報工学科)
黒木 舞香(生命環境科学科)
母里 壮太(知能機械工学科、JABEEコース(知能機械創生コース))
横大路 貴哉(電気工学科)
樋口 沙紀(情報工学科)
青井 優太(情報通信工学科)
野島 初姫(情報通信工学科JABEEコース(情報通信先端工学コース))
河野 和音(情報システム工学科)
高木 翔平(情報システム工学科JABEEコース(情報システム技術コース))
田中 那奈(システムマネジメント学科)
上蘭 菜月(社会環境学科)
板谷 晃良(情報メディア学科)
北出 咲子(ビジネス情報学科)

■団体表彰(外部)

平成27年度第60回九州吹奏楽コンクール大学の部 金賞
第63回全日本吹奏楽コンクール 銀賞
第41回九州アンサンブルコンテストサクソフォン4重奏 金賞吹奏楽団
平成27年度第3回村上杯九州学生春季リーグI部 優勝
平成27年度九州学生リーグ1部決勝リーグ 優勝
ラグビー部
第44回福岡六大学野球春季リーグ戦 準優勝
第65回九州地区大学体育大会(九州インカレ) 準優勝
第44回福岡六大学野球秋季リーグ戦 3位
硬式野球部
平成27年度九州学生女子柔道優勝大会女子3人制の部 3位
女子柔道部
平成27年度福岡県大学準硬式野球春季リーグ戦 準優勝
準硬式野球部
第29回県大学弓道選手権大会男子団体 3位
第54回福岡市内学生弓道選手権大会男子団体 3位
弓道部
アクションサッカー 3rd STAGE2015A1 league 県大会 優勝
アクションサッカー九州大会2016 Division B 優勝
アクションサッカー愛好会
第36回九州学生アイスホッケーリーグ戦II部リーグ 3位
アイスホッケー部
平成27年度九州大学秋季バレーボール男子リーグ戦熊本大会 優勝
バレーボール部
第2回麻雀王国杯学生麻雀甲子園全国大会 3位
競技麻雀愛好会
全国学校・園庭ピオトープコンクール2015 日本生態系協会賞
ピオトープ研究会

■団体表彰(学内)

日頃の学内外のごみ分別活動、ISOパップの普及、外部交流を通じた本学学生への環境意識の啓発活動に尽力し、自ら率先して奉仕活動を継続的に務めた。
環境活動学生組織 えこFIT
日頃の学内外の清掃美化活動、立花祭のごみ分別ブースの設置及び回収に尽力した。
環境サークルオアシス部
平成27年度福岡工業大学学生自治会執行部
会長 藤岡 雅也(情報通信工学科3年)
実行局局長 古田 裕大(生命環境科学科3年)
代議委員長 上園 祥平(電気工学科3年)
分科会会長 畦地 聖智(システムマネジメント学科3年)
体育会会長 清水川 巧(システムマネジメント学科2年)
会計長 橋本 雅史(情報システム工学科3年)

■個人表彰

第65回九州地区大学体育大会(九州インカレ、硬式野球) 個人表彰・ベストナイン
土屋 直人(システムマネジメント学科4年)
丸田 翔太郎(社会環境学科3年)
岡田 悠生(社会環境学科4年)
牧元 直道(社会環境学科4年)
河野 勇磨(システムマネジメント学科4年)
第22回ユニバシアード大会記念九州大学野球選手権大会予選トーナメント 個人表彰・ベストナイン
萩木場 拓末(社会環境学科3年)
多田 裕規(システムマネジメント学科4年)
山ヶ城 智(社会環境学科3年)
丸田 翔太郎(社会環境学科3年)
平成27年度福岡県大学準硬式野球春季リーグ戦 個人表彰・ベストナイン
中垣 瞬(知能機械工学科2年)
嶋田 将人(情報工学科4年)
財津 光(情報システム工学科3年)
内野 達也(電気工学科3年)
鶴田 敦也(システムマネジメント学科1年)
第54回福岡市内学生弓道選手権大会 男子個人優勝
炭矢 幸泰(電気工学科3年)
第54回福岡市内学生弓道選手権大会 女子個人準優勝
松村 萌絵(生命環境科学科3年)
第18回福岡県学生アイスホッケー選手権大会 個人表彰
遠藤 紳之輔(情報システム工学科3年)
森 大智(社会環境学科3年)
第36回九州学生アイスホッケーリーグ戦II部リーグ 個人表彰
安達 翔太郎(情報通信工学科4年)
第75回九州学生選手権大会(水泳) 女子400m自由形4位
大澤 純加(社会環境学科2年)
2015年九州学生軟式野球選手権春季リーグ戦 個人表彰
末松 嶺良(知能機械工学科3年)
平成27年度九州大学秋季バレーボール男子リーグ戦熊本大会 個人表彰
豊永 大空丸(知能機械工学科3年)
平成27年度全国学生・生徒エアピストル射撃競技大会【AP40W】 3位
平 亜結美(電子情報工学科1年)

第15回玄武會テコンドー交流大会2015 統合ヘビー級男子の部準優勝
梶原 颯太(情報通信工学科3年)
第15回玄武會テコンドー交流大会2015 統合ヘビー級男子の部3位
溝口 響(電子情報工学科1年)
第15回玄武會テコンドー交流大会2015 型U30有級の部準優勝
溝上 達郎(生命環境科学科3年)
2015 宮崎県ベンチプレス選手権大会 ベンチプレスノーギア部門74kg級2位
岸本 陽介(社会環境学科3年)
平成27年度九州学生軟式野球連盟秋季大会 個人表彰・ベストナイン
太田 敦(電気工学科1年)
末松 嶺良(知能機械工学科3年)
第51回全日本学生自動車連盟九州支部全九州学生ジムカーナ選手権大会 B2クラス2位
佐々木 峻(情報工学科3年)
第27回全日本ロボット相撲中国大会 全日本の部ラジコン型優勝
龍 寛久(知能機械工学科2年)
第4回サイエンス・インカレ研究発表会 コンソーシアム奨励賞
高木 翔平(情報システム工学科4年)
宮地 頼太(情報システム工学科4年)
第4回サイエンス・インカレ研究発表会 ファイナリスト選出
高木 翔平(情報システム工学科4年)
宮地 頼太(情報システム工学科4年)
入江 大地(情報システム工学科1年)
原 未希子(管理工学専攻2年)
宮本 知佳(情報システム工学科3年)
中川 朋奈(情報システム工学科3年)
中野 萌士(情報システム工学科1年)
2015日本産業技術教育学会 第9回技術教育創造の世界(大学生版) 発明・工夫コンテスト教材開発部門 奨励賞
入江 大地(情報システム工学科4年)
中野 萌士(情報通信工学科2年)
原 未希子(管理工学専攻2年)
2015日本産業技術教育学会 第10回技術教育創造の世界(大学生版) 発明・工夫コンテスト教材開発部門 学会長賞
安部 寛治(電子情報工学専攻1年)
藤沢 広樹(電子情報工学科4年)
藤本 真己(電子情報工学科4年)
小林 康平(電子情報工学科4年)
2015日本産業技術教育学会 第10回技術教育創造の世界(大学生版) 発明・工夫コンテスト教材開発部門 特別賞
坂本 拓之(情報システム工学科3年)
吉武 柚希(情報システム工学科3年)
新宮町観光ポスター作製(新宮町観光振興団体:新宮町おもてなし協会)
末次 凌(情報工学科4年)
山口 雅貴(情報工学科4年)

国際交流

国際交流協定校一覧

国名	大学名	締結年	協定内容					平成27年度交流学生数	
			教育研究 活動交流	学生交流	教育・研究者 交流	事務職員 交流	留学生 募集戦略	本学からの 派遣	協定校 学生の受入
米国	フットヒルカレッジ	1992	○	○	○	-	-	-	-
	オレゴン州立大学工学部	2002	○	○	○	○	-	-	-
	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	2003	○	○	○	○	-	27	10
	サンノゼ州立大学	2015	○	○	○	-	-	5	-
韓国	慶星大学校	1981	○	○	○	○	-	-	2
	亞洲大学校	1990	○	○	○	○	-	-	-
	啓明大学校工学部	2009	○	○	○	-	-	-	1
中国	大連理工大学	1988	○	○	○	-	○	-	6
	南京理工大学	1993	○	○	○	○	-	9	14
	青島科技大学	2008	○	○	○	○	○	-	7
	北華大学	2008	○	○	○	○	○	-	1
タイ	キングモンクット工科大学	2008	○	○	○	○	○	12	17
	チュラロンコン大学理学部	2009	○	○	○	○	-	-	-
豪州	フェデレーション大学	2001	○	○	○	-	-	-	-
アルバニア	ティラナ工科大学	2009	○	○	○	-	-	-	-

研究活動

外部研究資金の取得実績推移

		(単位:千円)					
		H22	H23	H24	H25	H26	H27
共同研究	金額	17,275	14,219	6,375	11,083	10,507	10,355
	件数	19	14	11	15	14	18
受託研究	金額	17,003	16,116	6,535	13,113	8,781	14,625
	件数	8	8	6	9	6	11
奨学寄付金	金額	7,467	3,500	5,133	500	7,949	18,635
	件数	6	5	5	1	9	20
科学研究費補助金	金額	45,850	43,030	60,970	53,690	71,310	74,360
	件数	25	29	40	39	41	48
その他外部助成金	金額	475	1,566	5,439	23,570	653	540
	件数	3	2	5	10	4	1
合計	金額	88,070	78,431	84,452	101,956	99,200	118,515
	件数	61	58	67	74	74	98

教育関係補助金の交付状況

私立大学等経常費補助金の交付実績推移

区分	(単位:千円)				
	H22	H23	H24	H25	H26
一般補助	350,247	531,328	457,753	520,271	551,908
特別補助	382,202	99,322	94,815	96,906	137,690
合計	732,449	630,650	552,568	617,177	689,598
区分	H27				
一般補助	445,929				
特別補助	168,196				
合計	614,125				

平成27年度文部科学省補助金交付実績

文科省補助区分	事業名	交付額
産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業	中長期・実践型インターンシップ推進と教育的な指導体制の構築	1,329
大学間連携共同教育推進事業	産学協働による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成	6,177
大学教育再生加速プログラム	未来像を描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成	4,667
私立大学等教育研究活性化設備整備事業	テーマ「アクティブ・ラーニング」	15,422
私立大学等教育研究活性化設備整備事業	学園全体のラーニングコモンズ化と学生の学習時間増大に資するICT機能及びIR基盤の強化	31,993
私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備整備費等補助金	物質・エネルギーデバイス研究センター	34,875
	先端計測技術研究センター	8,000
	授業理解向上のためのプロジェクト等設備の拡充	9,688
	学修・研究環境向上のための図書館改修	9,619
	産業界が求める切削・加工ニーズに対応した工作機械の導入	10,080
	レーザーラマン分光装置	11,788
C棟(大学校舎)1F出入口自動扉改修工事	3,000	
合計		146,638

附属施設

図書館蔵書数 (平成28年5月1日現在) (単位:冊)

図書区分	蔵書数
和書	238,641
洋書	66,229
学術雑誌	1,689
AV資料	3,635
合計	310,194

図書館利用者数推移

利用者区分	(単位:名)					
	H22	H23	H24	H25	H26	H27
学内利用者	42,988	40,480	39,899	39,632	41,206	70,846
学外利用者	7,131	5,719	2,979	6,118	12,191	29,531
合計	50,119	46,199	42,878	45,750	53,397	100,377

情報処理センター利用者数推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
	35,195	23,783	33,202	31,878	33,614	33,044

平成27年度エクステンションセンター受講者数

講座名	講座数	受講者数
資格取得支援講座	42	722
情報関連講座	41	67
文化教養講座	207	1,399
FIT講座	5	69
合計	295	2,257

平成27年度モノづくりセンター利用者数

講座名	利用者数
学生プロジェクト	5,892
研究利用	504
一般利用	3,801
合計	10,197

校地・校舎

校地・校舎概要

建物名	主な設備、用途	延床面積(m ²)	建築年
A棟	グリーンルーム、学生ホール、ラーニングコーナー、売店、講義室24、演習室18、実験室18、研究室76、卒研室39	18,040	平成13年
B棟	学生サービスセンター、情報処理センター、レストラン、保健室、カウンセリング室、講義室18、演習室18、実験室12、研究室41、卒研室26	18,842	平成16年
C棟	地下ホール(収容人数300人)、学生ホール、レストラン、売店、書店、PCインフォスクエア、講義室8、実験室8、研究室24、卒研室26	10,303	平成3年
D棟	工作センター、講義室13、演習室7、実験室9、研究室25、卒研室23	8,504	平成16年
α棟	モノづくりセンター、キャリアサポートセンター、ラーニングスペース、多目的ホール(収容人数150人)	1,750	平成11年
本部棟	FIT Link(図書館)、エクステンションセンター、フレッシュマンスクール、カルティベーションサイト(A/L教室)、グローバルチューデントラウンジ、次世代マイクロ/ナノ金型開発センター、音とモノづくりの歴史資料館、事務局	12,735	昭和61年
FITアリーナ	シンフォニーホール(収容人数2,400人)、運動施設	5,470	平成12年
FITホール	多目的ホール(収容員数1,000人)、会議室	3,612	平成23年
坦心寮	男子寮(部屋数79、収容人数308人)	6,556	平成15年
コスモス寮	女子寮(部屋数107、収容人数141人)	3,833	平成5年
国際交流会館	留学生寮(部屋数27、収容人数50人)	1,102	平成4年
和白グラウンド	高校部活動用地	32,297	昭和37年
新宮総合グラウンド	野球場、ラグビー場、アーチェリー場、他運動施設	40,655	昭和62年
塩浜総合グラウンド	野球場、室内練習場、ソフトボール場	38,188	平成24年
FITアリーナ WESTコート	スポーツコート、相撲場	2,308	平成27年
FITセミナーハウス	課外研修・宿泊施設	1,310	平成24年

財務状況

■資金収支計算書 (平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

収入の部 (単位:千円)	
科目	決算額
学生生徒等納付金収入	6,262,900
手数料収入	146,506
寄付金収入	43,765
補助金収入	1,394,506
資産売却収入	3,878
付随事業・収益事業収入	180,508
受取利息・配当金収入	113,879
雑収入	309,857
前受金収入	1,956,555
その他の収入	2,048,826
資金収入調整勘定	△ 2,293,322
前年度繰越支払資金	2,050,467
収入の部合計	12,218,325
支出の部	
科目	決算額
人件費支出	4,922,387
教育研究経費支出	1,766,274
管理経費支出	688,172
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	60,000
施設関係支出	1,585,531
設備関係支出	658,089
資産運用支出	395,877
その他の支出	227,030
資金支出調整勘定	△ 265,003
次年度繰越支払資金	2,179,968
支出の部合計	12,218,325

■貸借対照表 (平成28年3月31日現在)

資産の部 (単位:千円)	
科目	平成27年度末残高
固定資産	31,993,681
有形固定資産	22,591,407
土地	3,473,531
建物	13,068,158
構築物	1,327,374
教育研究用機器備品	2,334,486
その他の機器備品	87,920
図書	1,118,301
車両	39,682
建設仮勘定	1,141,956
特定資産	6,930,000
第3号基本金引当特定資産	1,500,000
退職給与引当特定資産	1,600,000
施設拡充引当特定資産	3,330,000
教育設備引当特定資産	500,000
その他の固定資産	2,472,274
有価証券	2,412,297
預託金、施設利用権など	59,976
流動資産	2,575,292
現金預金	2,179,968
未収入金	317,398
修学旅行預け金、前払金など	77,925
資産の部合計	34,568,973

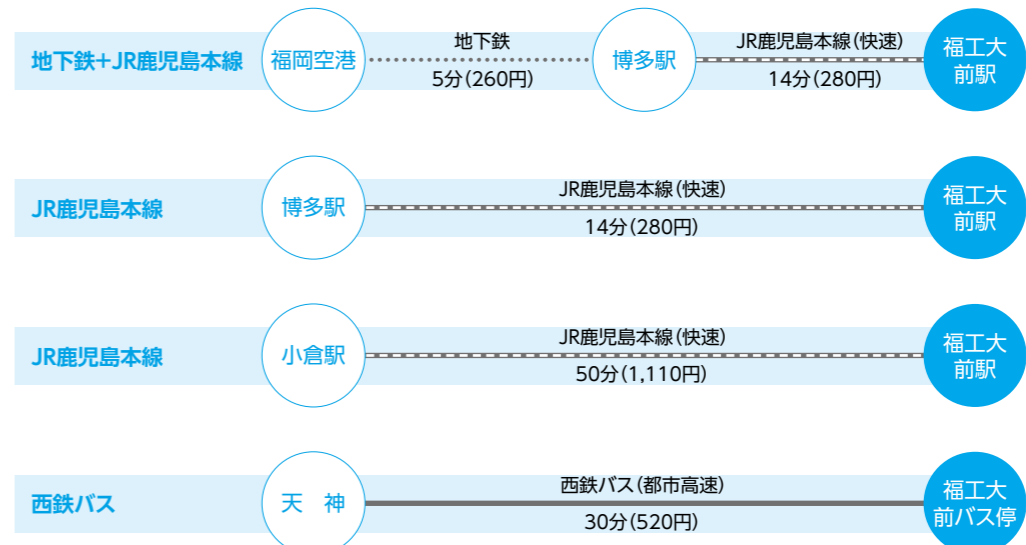
■事業活動収支計算書 (平成27年4月1日から平成28年3月31日まで) (単位:千円)

教育活動収支		科目	決算額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	6,262,900
		手数料	146,506
		寄付金	43,765
		経常費等補助金	1,272,507
		付随事業収入	180,508
	雑収入	245,048	
	教育活動収入計	8,151,234	
	支出	人件費	4,861,229
		教育研究経費	2,672,276
		管理経費	753,048
徴収不能引当金繰入額等		0	
教育活動支出計		8,286,553	
教育活動収支差額	△ 135,319		
教育活動外収支		科目	決算額
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金等	110,827
		教育活動外収入計	110,827
	支出	借入金等利息等	0
教育活動外支出計		0	
教育活動外収支差額	110,827		
経常収支差額	△ 24,492		
特別収支		科目	決算額
特別収支	収入	資産売却差額	0
		現物寄付、施設・設備補助金等	158,924
	特別収入計	158,924	
	支出	資産処分差額	3,367
特別支出計		3,367	
特別収支差額	155,557		
基本金組入前当年度収支差額	131,066		
基本金組入額合計	△ 1,935,574		
当年度収支差額	△ 1,804,508		
前年度繰越収支差額	△ 4,235,439		
基本金取崩額	0		
翌年度繰越収支差額	△ 6,039,946		
(参考)		科目	決算額
事業活動収入計		8,420,986	
事業活動支出計		8,289,920	

負債の部 (単位:千円)	
科目	平成27年度末残高
固定負債	1,625,215
長期未払金	21,029
退職給与引当金	1,604,186
流動負債	2,555,611
未払金	242,738
前受金	1,956,555
預り金	306,881
仮受金	49,437
負債の部合計	4,180,826

純資産の部 (単位:千円)	
科目	平成27年度末残高
基本金	36,428,093
第1号基本金	34,424,093
第3号基本金	1,500,000
第4号基本金	504,000
繰越収支差額	△ 6,039,946
翌年度繰越収支差額	△ 6,039,946
純資産の部合計	30,388,147
負債及び純資産の部合計	34,568,973

減価償却額の累計額の合計額 11,833,934



※乗用車の場合…国道3号線から国道495号線へ進み和白方面へ

福岡工業大学

平成27年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

編集/福岡工業大学 IRプロジェクト

発行/平成28年7月

福岡工業大学

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号 TEL: 092-606-0619 FAX: 092-606-8923



For all the students

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

工学部

電子情報工学科
生命環境科学科
知能機械工学科
電気工学科

情報工学部

情報工学科
情報通信工学科
情報システム工学科
システムマネジメント学科

社会環境学部

社会環境学科(文系)

大学院

工学研究科
社会環境学研究科

福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科
ビジネス情報学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科
電気科
電子情報科